
平成13年度 自然・人・地域に学ぶ

—南但馬自然学校プログラム研究委員会のまとめ—
(自然学校の充実に向けたQ&A・実践事例集・自然学校を楽しむあそび100選)



兵庫県立
南但馬自然学校

HYOGO KENRITU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO

「もしも子どもを遊び嫌いにすることができたら、人類を亡ぼすことができるだろう」かなり前の「どんぐり」（本校機関誌）に書きました。たった5泊6日ですが自然学校は遊びを通じて人類を滅亡から救う「人類防衛」のお城です。

「学力低下」論議がにぎやかになってきました。自然学校に対して「遊んでいないで勉強を」なんて圧力がかかってこないとも限りません。子どもたちを勉強嫌いにすることに成功した魔の手が勢いに乗って「今度は遊びも」と言って攻めてくるのです。子どもたち、遊び嫌いになるばかりか勉強嫌いも加速するでしょう。

今回のプログラム研究の成果として、学力論議、勉強論議はあとまわし、楽しい遊び、いつでもどこでもできる遊び、仲良くなる遊び、お互いを知る遊び、自然学校のプログラムだけでなく、もしかしたら授業の合間にだって気楽にあちこちにはさんでいただこうと集めました。

人類防衛の切り札になるといいな、と考えています。

兵庫県立南但馬自然学校

校長 森本 雅 樹



子どもが夢中で遊んでいる時、本当に子どもらしく生き生きと輝いています。そして一つ一つの遊びの素材や広がり、仲間とのコミュニケーション、遊びの空間などが豊かであればあるほど、蓄積された体験は子どもの宝になるに違いありません。

私は子どもの頃、神戸の市街地で育ちました。そこはいわゆる「いなか」ではありませんでしたが遊び場には事欠きませんでした。路地でのメンコ、ビー玉、Sけん、裏のはげ山では凧揚げに粘土ほり、どろんこになって駆け回った鬼ごっこ、奥まった所にある貯水池付近でのくわがた探し、摩耶、再度の山歩きなどが楽しい思い出としてよみがえってきます。このような体験は私にとってはもちろん、同様の体験をしている多くの人々の豊かな財産となっているように思います。

自然学校でのプログラムはおおむねそれぞれの「ねらい」をもって計画され進められますが、自然学校そのものを遊びの宝庫として大いに活用してみてもはどうでしょうか。素材は満ちあふれています。時間も空間もたっぷり広がっています。そこでは子どもの心ものびのびと解き放たれるでしょう。自由空間の少なくなった現在、自然学校の役割はますます大きくなっているのではないのでしょうか。

本年度のまとめは、より一層の工夫をこらしました。第1部と第2部では各委員の現場経験から導き出された具体的なアドバイスが中心となっていますので、自然学校の実施運営に即役立つでしょう。第3部では大いに遊ぼうというメッセージと先生方の引き出しを豊かにする素材が提供されています。先生も子どもと一緒にのびのびと遊んでみて下さい。

兵庫県立南但馬自然学校プログラム研究委員会

委員長 山 田 誠

も く じ

○ はじめに

I 自然学校の充実に向けたQ & A

・日程・場所・施設など	1
・プログラム・準備など	2
・子どもの心・身体、障害児の参加など	5
・担当教員、指導補助員、その他	6

II 実践事例集

・里山で遊ぼう！	9
・山に登ろう！	14
・電気がない原始生活を体験しよう！	17
・野外活動の定番！ 飯ごう炊さん(カレーライス)	21
・環境学習ゲーム！	25
・力を合わせて創作活動！	27
・ゆったりとやってみませんか！	29

III 自然学校を楽しむあそび100選

・野山のあそび	34
・草花あそび	38
・自然観察や発見	42
・自然物クラフト	46
・水辺でのあそび	50
・屋内でもできる集団あそび	57
・大きな集団でできるあそび	58
・活動上の留意点	61
・「自然学校で楽しむあそび」に関する参考文献	66

○ 参 考

・自然学校の円滑な実施のために	68
・自然学校実施要項	70
・自然学校に活用されている主な宿泊施設	71
・自然学校で活用されている県立施設	72

自然学校の充実に向けた Q & A



1 日程・場所・施設など

Q1：なぜ自然学校は5泊6日なのですか？

自然学校の日程を考える時、5泊6日という日数をはじめにあるのではなく、子どもたちの実態から目的を達成するために有効な日程が設定されるべきです。自然学校のねらいである「自然の中で豊かな体験学習をする」ために、余裕のあるスケジュールをたてるには何日が必要なのでしょうか。

現行の5泊6日においては、初日から2日目はドキドキ、ワクワク、3・4日目は緊張が解けるとともに自己主張も出てくるし、他者との摩擦に悩みます。5・6日目にやっと自己への振り返り、自己変革が図られるのではないのでしょうか。子どもたちの感想文からは、「自然学校を短くしてほしい」という言葉はほとんど見つからないようですよ。

また、初日と最終日は移動・準備・片付けのために費やされます。2～5日目の4日間がプログラムのための日数となり、ゆとりある体験学習のためには、現行の5泊6日が最低ラインとして必要だと考えられています。

Q2：5泊6日のうち、自然学校の施設を数日利用して、残りを他の施設で利用することは可能ですか。

可能です。冬季に実施される学校の中には、数日間雪山で活動し、その後他の施設を利用する学校もあります。

しかし、できるだけ利用施設を固定し、ゆったりとしたプログラムを展開する形の方が、自然学校のねらいを達成しやすいのではないのでしょうか。

Q3：4月に5年生を担当した時、すでに自然学校でどの施設を利用するか決定しています。

実際に子どもたちを前にしてから自然学校のプログラムを作成し、実施する施設も変更したいのですが。

学校の行事計画の関係上どうしても大きな宿泊行事は1年前に決定してしまいます。プログラムを作成する時に施設も決定することができたらいいのですが、難しいですね。ですから、前年度に自然学校の時期を考える時、担当学年だけでなく多くの教職員の意見を聞きながら場所の検討をすることがとても大切です。

どうしてもという時は、時期を変更することにより利用施設の変更が可能な場合もありますし、利用施設を変更しないで、従来とは違った大胆なプログラムを実施することを検討するのもよいと思います。

Q4：自然学校で施設を利用するとき、大きな施設を利用する場合や、小規模校で実施する場合は、他の学校と複数で施設を利用しなければならないことが多いです。1校でゆったりと利用することはできないのでしょうか？

小規模校の場合、他校と合同で実施することは多いですね。しかし、ぜひ単独で実施したいという強い希望があるならば、自然学校施設は一年中使用できるので、多少の不便さをがまんしてでも時期を変更して実施することはそれなりに意味のあることです。

一方、合同で実施するという中でこそ達成できる“ねらい”があることも見落とせません。学校

の枠を越えて新しい友だちを見つけ、より広い人間関係を築くチャンスがあることも忘れないでください。

Q5：大規模校の自然学校はどんなことに注意したらよいのでしょうか？

大規模校の場合は、同一週にその施設を利用する学校との利用調整や利用施設の確保、施設のスペースが小さく全体活動実施に困難をきたす、雨の日のプログラムなど考慮すべき問題が多いため、計画段階でかなり神経を使います。

また、実施中においては、活動が計画していた時間より大幅に遅れることがよくあります。学校生活においては、遅い子どもたちがいてもそれを一端打ち切り、次の授業に進まなければなりません。自然学校の活動では、全ての子どもが活動を終えるまで待っていなければいけないことがほとんどなのです。子どもたちは初めて体験することも多く、予想以上に時間がかかることを見越して、ゆとりをもった計画が必要です。

そして、施設内の移動や食事や入浴にも思った以上に時間がかかるということを忘れてはなりません。このように時間のゆとりに十分配慮して自然学校のスケジュールを考えていくことが、大規模校の自然学校実施上のポイントの一つです。

2 プログラム・準備など

Q6：プログラムやその準備については誰がどのように決めるのですか。

学校によって活動の決め方はいろいろです。教師主導で決めている学校、子どもたちが計画段階からプログラムづくりに参画している学校などまちまちです。内容についても利用施設の活動集から選ぶ学校、まず学校で考えてみて施設職員に実施可能か相談する学校など様々です。

また、全日程ではありませんが、自然学校が始まり、子どもたちが自然のフィールドを実際に見てから活動内容を決める学校もあります。冒険的な考えですが、施設や周りの自然、使用できる備品を実際に子どもたちが確認した後に、子どもたちがやりたい活動を考え、それに思いっきり挑戦していく自然学校を実施してはどうでしょうか。ワクワクしませんか。一度、試してみたいですね。

プログラムや準備物に悩んでいる時は、下見や打ち合わせに行き、施設の方々にアドバイスしてもらおうといいですよ。ただ、準備する物を忘れてもなんとかなるものです。無いことで知恵が生まれますからね。

Q7：プログラムを作成するときのポイントを教えてください。

まず、ゆとりあるものを考えます。活動期間は1プログラムについて最低でも1日、極端に言えば、6日間かけて一つの活動をするを考えてもよいと思います。ゆったりとした時間の中でこそ、自然に目を向け、自然の中でいろいろな体験をすることができるのです。

次に、ねらいを明確にすることです。ねらいがない活動では、その活動を評価することができません。教師の願いを「ねらい」として明確に位置づけることが大切です。

そして、あなた自身が幼い頃、野山を駆け回ったことを思い出してください。(今の若年層の教師には経験が少ないかもしれませんが……自然体験の持つ素晴らしさに子どもと共にふれる絶好の機会です) 山や川など自然の中で遊んだ記憶を大切に活動を考えてみてはいかがでしょうか。

Q8：自然学校も14年目を迎えて、『自然学校の原点に帰るべきだ』などと言われることがありますが、ズバリ『いい自然学校』とはどんな自然学校ですか？

『いい自然学校』について、次のようなポイントをあげることができます。

- ① 「学年の児童の実態」と「教師・保護者・地域の願い」をふまえて、どんなねらいを設定するか、「児童参画」という視点からも子どもにもどんなめあてを作らせるかを考えましょう。そこからどんな活動を取り入れればよいかが見えてきます。

(例1) ねらい「自然の中で不便な体験を味わわせることによりたくましさを育てたい」

↓
活 動「火起こし用具による火起こし体験+飯ごう炊さんを複数回」
「電気がない真っ暗な中でのテント生活を数日間」
「たらいと洗濯板を使った洗濯」

(例2) ねらい「友だちのよさの発見と自分の再発見をさせたい」

↓
活 動「一人用テント泊と一人炊さん」
「イニシアチブ（仲間作り）ゲーム・スタンプラリー」

- ② 主体的に取り組ませるために、子どもたちに選ばせたり、思い切って一日または半日を子どもたちに班または個人単位で任せることを考えましょう。ただし、「放任」状態にしないためにも、その際のルール作りや指導者の支援体制等はしっかり作っておくことが大切です。

(例1) 子どもたちが5泊6日の全プログラムをすべて自主的に選択する方法

(例2) インターネット等を活用して、事前の利用施設調べを行い、フリータイムの半日または一日をどのような活動にするか計画書を作り実行する。

- ③ せっかく利用する施設ですから、その特色を十分に生かした活動をしましょう。言い換えればその施設でしかできないプログラムをねらいに沿うように活動に取り入れましょう。

(例1) 県立兎和野高原野外教育センター

選択できる充実した本格的な登山コース

冬に雪を利用した自然学校ができる。広いフィールドとそれを生かしたプログラム

(例2) 県立母と子の島

海でのカヌー・カヤック体験・釣り・いかだ作り

(例3) 県立南但馬自然学校

基地作り・アニマルトラッキング・竹田城趾ハイキング

Q9：体験的な活動を一層重視することが重要となっていますが、今後、どのような点から自然学校を見つめ直し、充実させることが大切でしょうか？

自然学校は児童が様々な自然とかかわり体験を通して豊かな感性や知的好奇心を育んだり、最後までやり遂げた経験や親元を離れて生活した経験を通して、自立心や忍耐力等を育むなど、様々な成果を挙げています。

今後、これら自然学校の成果を踏まえるとともに、一層の充実に向け、以下のような点を重視し、「生きる力」を育む自然学校を推進することが大切ですね。

- (1) 自然学校のあり方の明確化
 - ・自然学校の趣旨を踏まえた学校としての「ねらい」
 - ・教師の役割及び指導補助員等の直接的、間接的支援の内容
 - ・具体的な教育効果等、実施後の自然学校評価
- (2) 「生きる力」の育成に向けた自然学校
 - ・ゆとりある滞在型の自然学校
 - ・子どもが計画段階から参加し、主体的に活動する自然学校
 - ・選択プログラム等を組み入れた自然学校
 - ・人間関係を豊かにする自然学校
 - ・自己をみつめ、生き方を考えるきっかけとなる自然学校
 - ・生命を尊重する心の醸成を図る自然学校
 - ・実施後の生活との関連を重視した自然学校
- (3) 地域に開かれた自然学校
 - ・実施場所における地域住民、ボランティア等の支援
 - ・保護者等の自然学校に対する一層の理解と協力

Q 10：5泊6日の自然学校を実施することは、学校全体として無理のない協力の仕方を考えていかなければいけないと思いますが、具体的にどのような方法があるのでしょうか？
次のような方法も検討してみてください。

- ① 自然学校のプログラムの公募
自然学校の基本方針を示し、全職員にプログラムを考えてもらいます。その中でいいものを採用して実施する。職員の参画意欲が高くなると考えます。
- ② プログラム上でメインとなるものへの協力
今年の自然学校の目玉が野外炊さんであるなら、その日だけ協力を依頼して人員を増やします。メリハリのあるプログラムは自然学校を意義深いものにするためにも有効だと思います。
- ③ 自然学校推進委員会の設置
学年を問わず自然学校推進のための委員会を校務分掌上に位置づけ、計画や書類作成などを協力して行います。情報を共有することで自然学校への理解も深まるものと思われれます。
- ④ 予算を人に関わるものに重点的にかける
補助金の中から人件費（補助員等への謝金）を多くして、担任の負担を軽減することも考えられます。安全管理の上からも有効な方法ではないかと考えます。
以上のように、学校の実情に応じて推進していくことが必要だと思います。

Q 11：野外炊さんのポイントを教えてください。

自然学校を実施する学校のほとんどが野外炊さんを実施します。指導方法も様々です。教師が主になり指導している学校、指導補助員が主になり指導している学校、子どもたちの自主性に任せている学校と様々です。

しかしながら、共通しているのは、班の人数です。ほとんどの学校が6～8名の班で野外炊さんを実施していますが、目的によってはこの人数でも多すぎる場合があります。食事を作ることの大

変さや個々が力を出し切ることをねらいとするならば、各班4名程度が良いと思われます。

また、メニューについても、全ての班が同じ学校、班に選択させている学校、班で考えさせている学校と様々です。思い切って、メニューはもとより材料の調達や調理の段取りなど全てのことを班に任せてみてはいかがでしょうか？ それも一回だけの食事ではなく、一日分3回の食事を全て子どもたちが企画する野外炊さんプランもおもしろいですね。

Q 12：キャンプファイヤーのポイントを教えてください。

自然学校を実施する学校の多くがキャンプファイヤーを行います。もしかするとあなたは、キャンプファイヤーには決められた進行表があると思っていないですか？ 女神が点火、「燃えろよ燃えろよ」の合唱、各班のスタンプ、「遠き山に日は落ちて」の合唱というお決まりのコースにこだわる必要があるのかどうか、今、一度考えてみてはどうでしょう。

小さな火を囲み語り合うファイヤー、ゲームやダンス中心のファイヤー、儀式的なファイヤーなど考えてみれば様々な形式が考えられます。決まりはありません。学校のねらい、5泊6日の中での実施日、ファイヤー場の広さ、子どもたちの実態等によって、それに適したファイヤーを実施することが大切です。

そして、多くの子どもたちがキャンプファイヤーを自然学校の最も大きな思い出と考えていることを忘れないでください。

Q 13：教室での学習と自然学校の違いはどこにあるのですか？

自然学校は、学習の場を教室から自然の中に移して実施しているということは言うまでもありませんが、もう一点大きな違いがあります。

自然学校は、学校とは違った自然体験、社会体験、身体的体験、感性的体験等さまざまな体験を通して行う教科等の枠を超えた学習活動であり、豊かな人間性や問題解決能力等を育成するなど人間教育の場であると言うことです。

そのメリットを最大限に生かし、ゆとりのある時間の中で、子どもたちが自ら考え、自分がしたい活動に思う存分取り組み、自然の中にゆったりと身をゆだねることができるのだと言えます。

その中で、教室では得られない気づきや発見があり、満足感や成就感等が味わえるのではないのでしょうか。教師自身も新しい発見があるはずです。

3 子どもの心・身体、障害児の参加など

Q 14：健康面で気になる子がいるのですが、何か気をつけておくことがありますか？

使用する施設に近くの医療機関を教えてもらい、あらかじめ連絡をいただいていた方がいいでしょう。また、保護者との連携や施設との綿密な事前の打ち合わせが大切です。

Q 15：参加したくないという児童がいるのですが、どうすればよいのでしょうか？

自然学校は宿泊期間が長いので、不安になる児童がいるのは当然です。でも、自由参加ではない

ことや、保護者、児童が安心できるようなことを話し、前向きに考えられるようにサポートしておきましょう。

不安がっている児童も参加すると、結構楽しんでますよ。

Q 16：雨が降ったときのプログラムはどうしたらいいのでしょうか。

警報がでているときは別ですが、多少の雨の中でもオリエンテーリングや散策など野外の活動が可能です。雨だから外での活動はできないと考えずに、濡れて風邪をひかぬよう安全や健康についての対策をとりながら、雨天なりの楽しみ方ができると思いますし、それでこそ「自然」の中での体験活動なのです。

Q 17：自然学校の対象学年を小学校5年生にした理由はなぜですか？4年生や6年生ではダメなのですか？

この時期の子どもたちは心身ともに発育、発達著しく、自然環境に恵まれた中での集団宿泊生活を経験することは心身の調和的な発達上望ましく、しかも自然学校が始まった当時、小学校5年生で宿泊を伴う野外活動を実施している学校が90%にのぼっているなどの理由があったからです。

また、学校の独自性をふまえ、4年生においては自然学校へのステップとなる野外活動（場合によっては宿泊を伴う）を、6年生においては自然学校をさらに発展させた活動を行うと自然学校がよりよいものとして位置づけられるでしょう。

Q 18：障害がある子どもたちもなんとか自然学校に参加させたいのです。いろいろな事が気になっていますが、踏み切るべきでしょうか。

健康面などさまざまなことを気にしておられますが、それは障害がある子どもを担当する者にとっては当然なことです。でも、今までの多くの取組の中では、心配されたことも少なく、意外に大きな成果を挙げている場合が多いようです。

障害がある子どもの心や体に対する負担を考えない訳にはいきませんが、子ども同士で寝食を共にする中で交流が図られ、かけがいのない体験になるはずで、障害の程度や状況を十分に把握し、教職員や補助員等による必要なサポートやケアを行いながら可能な限り参加させることが望まれます。

4 担当教員、指導補助員、その他

Q 19：当校の自然学校は、指導補助員（リーダー）にも関わってもらっていますが、指導補助員に対する事前指導としてどういうことが必要でしょうか？

指導補助員への自然学校事前打ち合わせ会の時、ある小学校が次のような資料をもとに指導を行ったので以下掲載します。参考にしてください。

リーダーの心がまえ ～5泊6日の自然学校を前にして～

- 1 本校の自然学校のねらいを6日間いつも意識しておいてください。

- | |
|---|
| <p>1 自然の中での友だちとの共同生活や不便さを実感させる体験活動を通して、心と体をきたえ、苦しくともがんばりぬく子どもに育てる。</p> <p>2 自然の変化の中で、自ら考え、進んで行動することができる子どもに育てる。</p> |
|---|

- 2 主役は子どもたち

- ・グループは男女混合で構成されています。子ども同士の教え合いや助け合いを仕組んでください。けんかや失敗体験はいつでも起こります。その体験をなるべく子ども同士で解決できるように助言してください。教職員・リーダーはあくまでも「お助けマン」です。子どもたちの力や状況に応じて手を貸したり、見守ってください。

- 3 「若さ」を武器に子どもたちと共に汗を流して楽しもうという姿勢で！

- ・はじめから教えてやろうという姿勢では、子どもの自主性の芽を摘んでしまうことがあります。むしろ子どもと同じような気持ちで、子どもと同じように動いてください。子どもが元気のない時は子ども以上に動いてください。子どもが元気な時は少し控えめに動いてください。

- 4 いい行い、伸びたことは心からほめてください。

ダメなことはダメとしかってください。(メリハリを持たせてください)

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・仲間がいやがっているのを知っていて、いやなことをし続けた時
(悪口・いやなあだ名・いじめ)・弱い者いじめ・一生懸命やろうとしていない時 (火を扱う場合などケガに結びつきそうな時は特に) |
|---|

- 5 リーダー自身が、しっかり食べて、寝ること。

(体調を崩さないよう、健康管理をしてください。リーダーは5泊6日間を子どもたちと共に過ごします。)

- 6 明るく！ そして、子どもへの言動に気をつけてください。

Q 20：子どもたちが生き生きと活動できるようにするには教師がどんな支援をすれば効果的ですか？

何よりも、しっかりと見守ることです。解決方法を教えることよりも、何につまずき、どんなことで苦しんでいるかをしっかりと把握するために子どもによりそい、見守ることです。

自然学校では「知恵」を磨くことができます。知恵を働かせるために苦労させることも必要です。ただ、尋ねてきた場合には1つの答えを与えるのではなく、解決のヒントを与えたり、複数の方法を示し選択させるようにするとより意欲的になると思います。子どもと共に楽しみましょう。

自然学校实践事例集



里山で遊ぼう！

1 ねらい

- (1) 自然学校本来のねらいである「自然にどっぷりと浸る」ために、雑木林の中で自由に、自分たちの考えた遊び場をつくり、しっかり遊ぶことができる。
- (2) 友だちと協力して、自然にあるものを使って〔知恵〕を生かしながら活動することができる。

2 事前の指導

- (1) 現地の様子等を知らせ、やってみたいことを中心にグルーピングをする。
例：ぶらんこ 基地 シーソー ターザンロープ
- (2) 安全上どうしても禁止しなければならないことだけ知らせる。

3 展開

活 動 内 容	留 意 事 項
<p>(1) 活動を開始する前に 鎌、のこぎり、ナタの安全な使い方とけがをし やすい事例をあげて注意を喚起する。</p>  <p style="text-align: center;">いざ、行かん！ 1日中たのしむぞー！</p> <p style="text-align: center;">さて、この表情がどうなるのでしょうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に入念な現地調査を行い、あらかじめ事故が起きやすい場所を確認しておく。さらにそこでしかできない活動を考えておく。 ・安全の配慮は、入念にする。人の配置も事前によく考えて、できるだけ多くの目で見守る。 ・どんな道具を使わせるか検討して必要最小限のものを貸し出すようにする。道具の代わりに使うのは……知恵です。 ・自由にできることを知らせて、時間の限り自分たちのやりたいように過ごさせる。 大切なのは結果ではなく、その過程です。

(2) 制作中



まず、木を切ろう！
でも、なかなか切れないぞ……



この場所がいいよ
ここにぶらんこをつくろう！



ぼくが登ってロープをかけよう

・慣れない手つきで大変危なそうに見えるが、ここは「ぐっと我慢」して見守ろう。そのうちコツをつかむまで……

・立木も雑木もこの一帯の木を切ってもよいという許可を得ていたので、思う存分悪戦苦闘させることができた。環境設定は何よりも大切です。

・現地で一番にすることは、何をどこにつくるかを考えることです。今あるものを上手に利用しているグループをほめることでどんどん考えさせましょう。

・考える、相談する、やってみる、また考える、工夫する。子どもたちの知恵がみがかれていきます。

・女子のグループがロープをかけようとして困っているときに、すぐに手伝ってあげた心優しき少年。仲間意識はこんな小さなことから育まれます。

(3) できた!



けっこう強いよ

・お互いに、できたもので遊び合う交流をさせることで、友だちの苦労や工夫がよくわかる。

・つくったものは活動の合間に遊べるようにしばらくおいておくことも考えられます。



ロープの代わりは、つるだ!

・途中で用意していたロープがなくなりました。そこで知恵を使う子どもが現れました。しっかりほめて紹介すると、他のグループもやりはじめました。物がなくなると知恵が働き始めます。どんどん工夫させてみましょう。



ほくたちの基地、完成だ!
少々の雨だって、平気 平気

・最終日まで遊んだ自慢の基地。施設の方にもほめてもらい、撤去するはずが保存しておくことになりました。

・どんなものができたとしても、ほめる材料を探して、大いにほめましょう。子どもたちは色々とおもしろいことを考えます。自然学校を通して知恵を磨くことができるのでは……

4 児童の感想

今日は、自然体験をしました。最初ブランコをつくりました。失敗せずにつくれました。みんなが乗ってもひもが切れないじょうぶなブランコでした。臧野リーダーが乗っても切れませんでした。先生が乗っても切れませんでした。2人で乗っても切れませんでした。途中から雨が降り、笹を切って屋根をつくりました。すると、あまりぬれませんでした。いすもつくりました。終わったとき虹が出ていてとてもきれいでした。

今日は楽しみにしていたプログラムの一つ、自然体験がありました。木が入り組んだところに階段をつくり、その上にベンチをつくりました。一度こわれたときはビックリしました。でも、またみんなで初めからつくり直しました。途中でロープが足りなくなったので、あちこち歩き回ってつるを探してロープの代わりに使いました。結ぶのがちょっと難しかったけど、できあがると丈夫にできました。

家に帰ってから弓をつくるために、竹を持って帰ることに決めました。

今日は、とてもいい思い出ができました。

今日は、自然体験で基地づくりをしました。のこぎりやナタなどで木を切って、木で基地をつくりました。ブランコやベンチやシーソーをつくって遊びました。ブランコは2つつくったけど、その2ついっぺんに乗ると上の木が折れそうで危なかったです。ベンチは100kg以上耐えていたのですごいと思いました。

今日は基地づくりに絶好の場所を見つけました。また、基地づくりをやりたいです。

基地づくりをしていると、シカのうんちがいっぱいありました。夜になると、イノシシやシカが出てくるそうです。

5 さらに発展させるために

(1) 時間の確保

ゆったりと知恵を使いながら活動させるために、今回の一日の活動から帯のように設定した時間の中で活動するのもおもしろいと思います。メインの活動が【自然体験】なのです。

(2) 場を広げる

今回活動した場所は、木を自由に切ることもでき活動に適した場所でした。ただ、もっと広い場所でのびのびと活動することで、さらにダイナミックな子どもたちの活動が見られたのではないかと少々残念です。子どもたちが力を十分に発揮できる環境設定こそ大切だと思われます。

6 活動を展開する条件整備

(1) 山の雑木林

活動するフィールドが必要です。適度に樹木があり、子どもたちの想像力をかき立ててくれる場所が必要となります。また、樹木を切っても加工してもよい場所であればさらに活動が活発になります。

(2) 何も足さない

ともすれば、日常の生活の中で不便な思いをしない生活を送る子どもたちにとって里山は殺風景な不毛な場所になりがちです。そこで、教師はあれこれと準備をしてしまいがちです。

しかし、自然の中で生活するとはどういうことでしょうか？ もともと不便で何もないことはわかっていたことではないですか。自然の中では何も足さない方がよいのです。何もなければ知恵を働かせ始めます。根気よく見守り、適切なアドバイスを送る。ここでは、こんなスタンスが必要です。

(活動実施場所：県立西はりま天文台公園)

山に登ろう！

1 ねらい

- (1) 登山途中で自然に触れ、自然の美しさ、すばらしさを感じる。
- (2) 最後まで、自分の力でやりとげるよろこびを味わう。
- (3) 友だちと励まし合い、ともに活動することの大切さを知る。

2 展開

活 動 内 容	留 意 事 項
<p>(1) 山登りをするときに注意することを知る ・班で気をつけることを話し合う</p> 	<p>・事前の下見を行い、危険な箇所などを調べておく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>危険な箇所や生き物などに教師は配慮をして下見しますね。しかし、よく見落とす所が、トイレです。 山頂にトイレがあるのか、あるならば、必要なもの（トイレットペーパーなど）はそろっているか、確認し忘れることがあります。実は、トイレットペーパーがなくて、困ったことが……。</p> </div>
<p>(2) 山登りをする</p> 	<p>・山に入ってから、指導者で役割分担を行うようにする。先頭、最後尾には、必ず指導者がつくようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>なかなか登れない子どもがいます。でも、こんな時こそ、その子のペースに付き合って、励まして自分の力で登らせたいものです。そのためには、指導者の人数は多く確保しておきたいものです。</p> </div>

活 動 内 容	留 意 事 項
 <p>休憩！ だいぶつかれたなあ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登山をするときは、水分補給に注意しましょう。片道だけで飲んでしまう子どももいます。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>事前に500mlのペットボトルを1人2本用意しておきます。それにお茶をいれ、片道ずつ飲むように知らせておくと、子どもたちも目安をもちやすくていいですよ。</p> <p>指導者はけがをした時の洗いを準備しておきたいものです。</p> </div>
<p>(3) 山頂で昼食をとる</p>  <p>やっとお昼ご飯！ みんなで食べるとおいしいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食後は、ゆっくり休ませます。 ・下山後も十分休息できるように、時間に余裕をもたせたプログラムをたてるとよいでしょう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>施設によっては、比較的自由に入浴の時間を設定することができます。</p> <p>下山後、ゆっくりと入浴させてもよいのでは……。</p> </div>
<p>(4) 下山する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・雨天時に実施するときは必ず、下山後入浴できるように準備しておくことも必要です。

※ 登山は、天候に大きく左右されるため、雨天時のことも考えておくことが必要です。
 今回はプログラムの中に、一日中子どもたちが自由に自然散策できる日を設定しておき、どうしても登山ができない日は、その日と入れ替えることができるようにしていました。
 (少々の雨でも、登山させるのもおもしろいですよ。雨の時にしか触れられない自然もありますよ。)

3 児童の感想

つかれた……	大野山には、3キロぐらい歩いて登りました。ぼくは、1500メートルくらいでヘトヘトでした。頂上について、家とかがすごく小さく見えました。山を下りるときもつかれました。
大野山に登った	健康の郷から、大野山まで歩くのだけでも大変だったのに、大野山を登るのはもっと大変でした。道のりは約3キロありました。お茶が少なかったため、どうしようと思いました。頂上に着くと、いろんな山が他にもいっぱいあったし、家がとても小さく見えました。少し山を下りて、広場で昼食をとりました。みんなで食べる昼食はとてもおいしかったです。山を下りるときは、何度もこけそうになったので、ゆっくり歩きました。
初めての登山	2日目に山登りをしました。私は山に登ったことがなかったので、楽しみでした。でも、しんどくて何度も休憩をしました。頂上に着いたときは、とてもうれしかったです。下りは、坂道だから大丈夫だと思っていたけれど、何回もすべってしまいました。下りの方がこわかったです。
気持ちがよかった	山登りをしているとき、頂上に100メートル近づくとくたびれが立っていました。あと、900メートルになったときは、みんなに「あと900メートル!」と、叫びました。頂上に着いたときは、とてもしんどくて、でも「登りきったぞ!」という気持ちで心がいっぱいでした。

4 さらに発展させるために



○ 本校は、登山を経験している子どもが少なかったため、登山だけを行いました。そのため、1時間早くプログラムが終了してしまいました。もっと子どもたちだけで活動できる場面をもてばよかったと思います。

- ・ 班ごとにオリエンテーリングをしながら登山をする。
- ・ 自然に目を向ける活動（ゲームなど）を取り入れる。

（活動実施場所：県立奥猪名健康の郷）

電気のない原始生活の体験をしよう！

1 ねらい

- (1) 昔の人々の火起こしを体験し、日常生活がいかに便利なものであるかに気づく。
- (2) 電気のない生活を体験し、エネルギーの大切さを体感する。
- (3) 友だちと協力することの大切さを知る。

2 総合的な学習とのつながり

「私たちの環境と未来のエネルギー」というテーマで取り組んでいる総合的な学習の一環として、自然学校で様々な体験を組み込んでいるプログラム例

3 展開

活 動 内 容	留 意 事 項
<p>(1) 火床を作る。</p> 	<p>「外灯も消してもらって真っ暗にしたい！」</p> <p>暗闇の中での活動は危険がいっぱい！事前の打ち合わせの時に、暗闇の中で活動する意図を共通理解しましょう。さらに、施設の理解が得られれば、すべての外灯を消してもらうことも可能かも。</p> <p>「火がつかない！」</p> <p>昼から取り組んだけれど、5時ごろになっても火を起こせた班は一班だけ。どんどん暗闇はせまり焦る担任。そんなときに一言。「ある程度で火起こし体験をやめて、火が起きた班からもらい火をさせたら？ 原始生活はそんなこともしてたと思うよ」そんな考え方もあったんだ。目からウロコでした。</p>
<p>(2) 火起こしの手順を知る。</p> 	<p>「こんな真っ暗で後片付けなんかできるの？」</p> <p>真っ暗な中での夕食を楽しむ子どもたち。担任はカレーを口に運びながら、その後の片付けが気になる。でも、電灯はつけたくない。どうすればいいのか！ そんな時、また一言。「夕食の後片付けは真っ暗な中で無理にさせる必要はないと思うよ。自然の明かりで出来る明日の朝にしたら？ 昔はそうしてたんじゃないかな。それもいい経験だと思うけど？」その通り！ さすがです。</p>

(3) 火起こしの実習を行う。



煙が少し
でてきたぞ！

- (4) 火起こしをした班から、飯盒炊さんに取りかかる。
- (5) 火起こしができなかった班は、火起こしのできた班から火をもらう。
- (6) 暗闇の中で夕食をとる。



本当に、まっくらだあ。

- (7) 残飯を片付ける。
- (8) 暗闇の中で家族へ葉書を書く。
- (9) 明かりのないキャンプ場でテント泊をする。



いそげ！ 火種が消え
ないうちに、火を移せ！

「カラスに注意！」

残飯だけは炊事場に残さず、リーダー棟かごみ置き場へ。ごみ袋に入れるだけでは、カラスやキツネやタヌキなど獣の仕業で朝目覚めたときには悲惨な光景に。

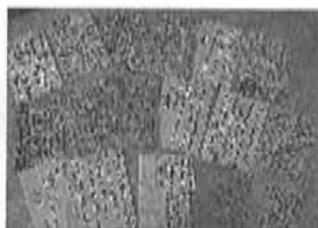


「ええっ！ 熊が出る？」

自然学校が始まってから「最近親子の熊が出没している」と聞かされた。「ピンチ！ 電気のない生活ができない？」でも、施設の方々が「山側に向けてライトを照らし、ラジオをかけたままにしていると大丈夫！ キャンプ場からできるだけ離れた場所にライトとラジオを置いておきます」とプログラムの後押しをしてくださった。おかげで子どもたちは電気のない眠れぬ夜を満喫(?)した。翌朝、駐車場に子熊が出没したことを聞いた。(ぞおっ…)

4 児童の反応

<p>暗闇の中での夕食</p>	<p>火を起こし始めてカレーを食べるまで、所用時間約4時間。向かいに座っている友だちの顔さえはっきり見えないほどの暗闇の中で食べるカレーは、最高だったようだ。こんな経験は自然学校だからできること。</p> <p>後片付けは、明かりがないため不可能と判断。結局、翌日の朝、朝食を作りながら前日の夜の後片付けをすることになった。</p>
<p>暗闇の中で家族へ葉書を書こう</p>	<p>テント一張りにつき、一つの懐中電灯で過ごす夜。家族へ葉書を書く。懐中電灯一つでは、班全員が同時に文字を書くことができず、明かりをめぐるトラブルも起きていた。あきらめて、翌日の朝に葉書を書いた児童もいたようだ。困ったとき、次の方法を考える。それも大切な知恵です。</p>
<p>暗闇の中のテント泊</p>	<p>外灯がおとしてあるためテントの外は真っ暗。しかも、テント一張りにつき一つの懐中電灯だけ使用してよいという条件。トイレに行くのも、用があって移動するときも、テントのメンバー全員で移動するはめになった。明かりのない真っ暗なテントの中で待ち続けるなんて怖くてできないようだった。</p> <p>就寝時は、風の音、虫の声、木の音が気になったり、カメムシがくさかったり、熊がでるかもしれないという恐怖感があったりして、なかなか寝つけなかったそうだ。自然界の夜を肌で感じながら眠りについた。</p>
<p>総合的な学習とのつながり</p>	<p>次の日の朝、「ぼくのテントでは、昨日の夜、一つの懐中電灯を取り合いしてけんかがあった。葉書を書くとき、懐中電灯一つだったら1人か2人しか葉書がかけなかったから、だれも自分の近くに懐中電灯を置いておきたくなって、けんかになった。たった一晩電気がないだけでけんかになったのだから、もし世界のエネルギーがなくなったら、世界中でけんかが起きて、戦争がおきると思う。エネルギーを大事にしないと大変なことになると思う。」と興奮した様子で話していた児童もいた。</p> <p>学校での生活にも変化が見られた。教室移動の際につけたままになりがちなお電灯を消すようになっていたり、電灯をつけるか消すかということで議論が起こったりすることもあった。体験したことは、生きてはたらく力になると実感した出来事だった。</p>



5 こんなこともできるかな

(1) 暗闇の中で、自然の音を聞こう。

何も用意はいらない。真っ暗な中、大地に寝転び、自然の音に耳を傾けてみよう。新たな発見があるはず。

(2) 暗闇の中で、一人寝を体験しよう。

一人寝テントで一晩。一人寝の恐怖と戦い、迎えた朝は充実感あり。

(3) 星空ウォッチング

広場に上向きに寝転び、満天の空を眺める。望遠鏡を借りるのもよし。肉眼で楽しむのもよし。

(4) 足跡トラップ

けものの足跡がとれるかも。

<準備物> 餌、模造紙、墨、雑巾

① けものが出そうな場所を現地の職員の方から聞いておく。

② 夜間に模造紙の上に餌を置く。

③ 模造紙の周りに墨をたっぷりひたした雑巾を敷き詰める。

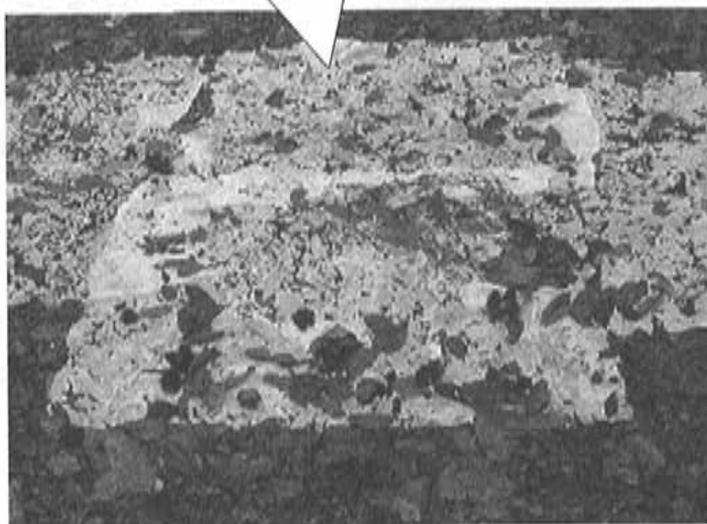
④ 翌朝、模造紙を置いた場所を見に行く。うまくいくとけものの足跡がとれるかもしれません…。



餌をおいて……。
明日の朝が楽しみ！

仕掛けた餌は全てなくなっていた。
噂のクマの仕業かな？
でも、雨のせいで足跡は残っていませんでした……。

足跡トラップの図



(実施施設：県立兔和野高原野外教育活動センター)

野外活動の定番！ 飯ごう炊さん (カレーライス)

1 ねらい

- (1) 生活が便利になった今日、野外で食事を作ることの大変さを味わう。
- (2) 班の仲間と共同作業をする中で、助け合うことの大切さを理解する。
- (3) 火の大切さを知る。

2 展開

活 動 内 容	留 意 事 項				
<p>(はじめに)</p> <p>・これは、本格的な飯ごう炊さんが初めてという子どもたちが「カレーライス」を作り上げるまでの活動をもとに作成した指導案です。</p>					
<p>*初めての飯ごう炊さんで、なぜカレーライスがいいの？</p> <ol style="list-style-type: none"> ① どんな料理かをすぐイメージできる。[みんながよく食べている] ② どの子も食べる・残飯が少ない。[人気メニューの定番である] ③ 子ども同士の教え合いができる。 [家庭で親と作った経験のある子どもが少なからずいる] ④ 調理の手順や味付けが簡単で、少々不得手な子どもが作ってもおいしい。 ⑤ 煮込むので食中毒の心配が少ない。 					
<p>ただ、『カレーライス』にこだわる必要はなく、上記の①～⑤の条件をほぼ満たす料理メニューなら、初めての飯ごう炊さんにはふさわしいと思います。</p>					
<p>(1) まき、食材料、食器材等を炊事場まで運ぶ。</p> <p>(2) 広い場所に集まり、飯ごう炊さんの仕方について説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火床の作り方・火の扱い方 ・飯ごうの扱い方・ご飯の炊き方 <p>(3) 飯ごう炊さんをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下2つのグループを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明時の心得として <ol style="list-style-type: none"> ① やさしい表現で (専門用語は避ける) ② 短く、必要な内容を簡潔に ③ まき等の具体物を使って (火床などは実際に見本を作る) ・詳細は「3 指導のポイント」を参照 ○ 食中毒の防止のために <ol style="list-style-type: none"> ① 必ず手を洗わせる。 ② 肉類は火にかける直前に切らせる。 (特に夏季) 				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">飯ごう・カレーグループ</td> <td style="width: 50%;">火床グループ</td> </tr> <tr> <td>・手を洗う</td> <td>・作業用手袋を着</td> </tr> </table>	飯ごう・カレーグループ	火床グループ	・手を洗う	・作業用手袋を着	
飯ごう・カレーグループ	火床グループ				
・手を洗う	・作業用手袋を着				



- ・飯ごうを洗ってお米をとぐ
- ・お米を水につけておく
- ・まな板、包丁等を洗う
- ・カレー材料を切る
- ・飯ごうとなべをかまどにかける
- ・煮込む



- ・食器を洗う
- ・食器をふきんでふく



- 用する
- ・火種になる枯れ葉等を取りに行く
 - ・火床を組む

- ・火をつける

- ・ご飯とカレーの出来具合に応じて、火の加減を調整する



- ・炊事用テーブルをふく
- ・炊事場の用具等の整頓をする
- ・ご飯とカレーをお皿に入れて、食事用テーブルへ運ぶ

(4) 班ごとに「いただきます」をして、カレーライスを食べる。

(5) 班ごとに「ごちそうさま」をして、後片付けをする。

○ やけどや植物によるかぶれの防止のために

- ① 必ず作業用手袋を着用させる。
- ② 事前にかぶれやすい葉(ツタウルシ等)を知らせる。



- ・火の管理をする子どもは興味本位で、どんどんまきを入れて、燃やし過ぎることがあります。その時は注意を促しましょう。

『火の高さの最高は、飯ごうを包むくらいの高さまで』という言葉がけが有効でした。また、火にかけた飯ごうを扱う時、作業用手袋を二重につけさせると最良です。高温の場合、作業用手袋一枚でもやけどをすることがあります。

*さて、火がつかない班がある時は……

説明の時に作った『火床見本』を再度見に行かせる。(決して手を出さない)

- ・『料理上手は片付け上手』と言われる。手の空いてきた子どもにはもう使わない用具を洗わせたり、ゴミの始末をさせるよう助言しましょう。



おいしい!

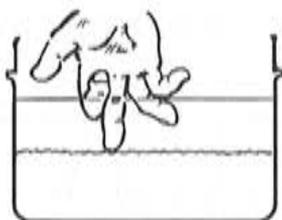
- ・食器は必ず本人に洗わせ、ふかせましょう。食器材の数を点検し、使った用具や場所の後片付けは炊さん前よりもきれいになるくらいがんばりたいものです。

3 指導のポイント

〔飯 ころ〕

- ・一般的な飯ごうは4合(4人分)までたけます。
- ・飯ごうに水とお米を入れて、2~3回お米をとぎます(洗います)。

- ・水加減は「お米の深さ+子どもたちの中指の指先から第2関節までの深さ」が目安です。



長い時間、水につけておくほどおいしいご飯ができるので、このことを一番にやるのがコツです。

- ・炎が 飯ごう全体をちょうど包みこむくらいの強い火にかけます。
- ・細い棒をふたに静かに当ててグツグツという振動が少なくなったら、ふたを開けて確かめます。

『赤子泣いてもふた取るな』という言葉もありますが、ふたをあけて見る方が確実だと思います。その代わり確かめたら、あわてずにすぐ閉めましょう。

- ・水がなくなり、お米の表面に小さな穴がぶつぶつあいていたら炊きあがりです。
- ・飯ごうをかまどから降ろして逆さにして5分くらいむらします。

『やけどをする危険もあるので逆さにしなくてもよい』という文献もありましたが、水分をご飯全体に同じようにゆきわたらせて、おいしくするためには必要だと思います。

- ・飯ごうがあたたかいうちに新聞紙や作業用手袋をした手ですすを落とします。

時間をおくと落ちにくくなります。

- ・決して叩かない。

ポコポコになると洗いにくくなり、自分たちはもちろん、後から使う人も困ります。

【火床作り】

- ・火が大きく育つのに大切なものが3つあります。

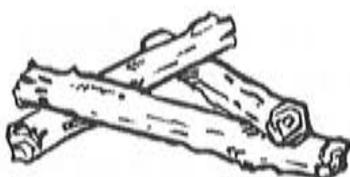
- ① まき [細・中・大・特大]
- ② 火種 [マッチ・新聞紙・枯れ葉(スギの葉が一番良い)等]
- ③ 空気 (酸素)

この3つが仲良く手をつないだ時に、火が大きくなっていきます。

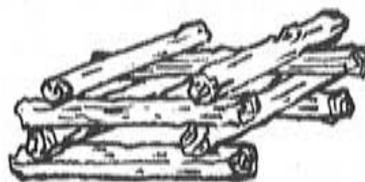
- ・空気を効果的に入れるためのまきの組み方例 (太いまきを使用し、実際に組み方を見せること)



① 3本を三角型に組む



② キャンプファイヤーのような井型に組む



キーワード「火は燃やすつもりでなく、赤ちゃんを育てるお母さんと同じ気持ちで大きくする」

- ・赤ちゃん（マッチの火）にいきなりトンカツ（特大まき）を与えても食べることができません（つきません）。

説明時に、ライターの火を特大まきに当てる行為をすると効果的でした。

- ・生まれたての赤ちゃん（マッチの火）が最初に食べる物は、ミルク（新聞紙等の火種）です。大きくなるにつれ、離乳食（細いまき）を与えます。さらに大きくなると、おかゆ（中くらいのまき）、ご飯（大きいまき）の順に与えていきます。
- ・食べさせすぎない（いっぱい突っ込みすぎない）こと。のどにつまったり、おなかをこわします（火がつきません）。
- ・赤ちゃん（火）と火の違うところは、赤ちゃんは確実に大きくなりますが、火は途中でまた小さくなることもあることです。その火の大きさに合わせて、まきの大きさを変えてください。火も『生き物』と考えて、お母さんと同じような気持ちで火を大きくしてください。
- ・ただし、火を大きくしすぎないようにしましょう。火の高さは飯ごうを包むくらいの高さが最高と考えて育ててください。

4 飯ごう炊さんでの留意事項

- ・飯ごう炊さんをするなら2回以上

せつかく5泊6日間の自然学校ですから、以下の理由から2回以上の設定をお勧めします。

- ① 1回目の反省を生かして、2回目以降ゆとりを持って取り組むことができる。
- ② えてして、『火床担当が男の子、調理をするのが女の子』というふうに役割が固定しやすいので、2回目以降、役割を1回目と入れ替え、飯ごう炊さん全体を体験させることができる。



利用施設や学年規模にもよりますが、可能なら発展させた形として、『飯ごう炊さんを4～5回設定する。回数を重ねるごとに班を徐々に分けて少人数で炊飯し、最後は一人1飯ごうで炊飯する。』というのはいかかでしょう。（確実に「傍観者」がいなくなります！）

- ・飯ごう炊さんのすべてを子どもたちの手で！

班編成の時に、よく子どもたちの班の中に先生や指導補助員が入る場合がありますが、先生や指導補助員の班を独立させて作りましょう。班の中に指導者がいると子どもたちの「甘え」がどうしても出てきます。また、指導者もつい手を出しがちになります。

【最後に……カレーについて一言だけ】

カレーで一番失敗するのが、水の入れすぎです。『カレー汁』にしてしまうのがよく見受けられます。水加減は少な目に…（材料が水面からちょうど顔を出しているくらいがベスト！）カレー粉を入れた後、水はたすことはできても減らすことはできませんから……。

（実施施設：県立兎野高原野教育センター）

環境学習ゲーム！

1 ねらい

- (1) 自然物を五感を働かせてじっくりと観察するとともに、自然の中でゆったりと時間を過ごす。
- (2) 友だちとともに発見や発表、協力することにより、互いの心の交流をする。

2 展開

(1) 「動物探し」

活 動 内 容	留 意 事 項
<p>① 活動内容を知る。</p> <p>② 個人で森の中に入り、自然物をじっくり観察し、何か動物に見えてくるものを探し出す。</p> <p>③ グループごとに集まり、それぞれ自分が見つけた動物を紹介しあう。</p> <p>④ みんなが納得し、感心した動物を相談して1匹選ぶ。</p> <p>⑤ 全体が集まり、それぞれのグループを代表する動物を、先ほどと同じようにして紹介しあう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物をじっくり観察し、何か動物に見えてくるものを探し出すことを知らせます。 ・活動の範囲をあまり広げすぎると、お互いに鑑賞しあったり、説明しあうための移動に多くの時間を費やしてしまうので、ある程度のエリアを定めて実施しましょう。 ・動物を指して「ここに〇〇がいるよ」と説明するのではなく、例えば、「この場所から、この方向を見るとゴリラがいます」というように、見えた場所と方角と何が見えたかを伝えます。 ・見つからない場合には、見る場所（例えば、「あの太い木の幹」など）や、見え方（例えば、「ゴリラの横顔」など）の具体的なヒントを出します。

(2) 「つながり探し」

活 動 内 容	留 意 事 項
<p>① 活動内容を知る。</p>  <p>② グループで指定された活動エリアに出向き、スタートとなる自然物を見つける。</p> <p>③ 1番目の自然物と共通する特徴・性質（例えば、色、形、におい、数、感触等）をもった2番目の自然物を探し出す。</p> <p>④ 3番目から5番目までの自然物を探し出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中には、様々な色や形をしたものが存在しています。しかし、その中で石や葉っぱと異なったものでも「ザラザラした表面」が似ていたり、フカフカした苔と松葉が「緑色」で共通であったりします。自然の中にある異なったものから、よく観察することで何かしらの共通した性質を探し出し、ことばの「しりとり」のように様々な自然物のつながりを考えていくことを知らせます。 ・最初の自然物は指導者から提示してもよいでしょう。 ・活動は、グループ全員でまとまって動く形式と一人一人が順番に探し出してくるリレー形式があります。活動のねらいや実施環境にあわせて選択します。
<p>⑤ 探し出したもののつながりが一目で分かるよう画用紙（地面）に連続して貼りつけていく。</p> <p>⑥ 各グループごとに、探し出してきたものとそのつながり方を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりに使用した共通する特徴は、二度使わないようにします。（色のみ、あるいは形のみのつながりにならないようにします。） ・最後と最初のもものがつながり、ぐるりと円を描くようにしてもよいでしょう。 ・大きなものはスケッチを行い、それを貼りつけることも可能であることを事前に話します。

(3) その他の活動

手と鼻で自然教室

物の形や色などの識別は、そのほとんどが視覚からの情報に頼っています。視覚をさえぎって、触覚や臭覚を活用して自然を観察してみます。この活動では、目かくしをして植物に触れ、それを絵に表現してみます。視覚を使わないで自然物を感じ取ることによって、新たな自然への気づきや親しみが広がります。

力を合わせて創作活動！

1 ねらい

- (1) 仲間と共に新たな物を作り出す楽しさ、自然の中で物を作りながら時間を過ごす楽しさを味わう。
- (2) 発表・鑑賞する活動を通して、仲間や自分自身の思いを伝え合うことを楽しむ。

2 展開

(1) 似顔絵

活 動 内 容	留 意 事 項
<p>① 活動内容を知る。</p>  <p>② グループで誰の似顔絵を作成するかを話し合う。</p> <p>③ 材料に使う自然物を採取する。</p>  <p>④ 友だちの似顔絵を作成する。</p> <p>⑤ 作成した似顔絵のモデルは誰かを他のグループの人たちに当ててもらおうとともに、実施後の感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の中にある小枝や葉、コケ、草花、木の実、小石などを利用して友だちの似顔絵を作成することを知らせます。 ・ 採取した物を画用紙に貼りつけたり、地面をキャンパスにして作成するなど様々な方法があることに気づかせます。 ・ 他のグループに気づかれないように決めさせましょう。 ・ ウルシなどのかぶれやすい植物が周囲にある場合には、その場所を子どもたちに確認させます。 ・ 自然物の採取については、自然保護の観点から最小限にとどめて持ってくるよう指示します。 ・ 貴重な植物を荒らすことのないように、実施場所の選定に気をつけましょう。 ・ 作成時間は15分程度とし、全グループが持ち寄ります。 ・ 画用紙、セロテープ、接着剤等を準備しておきます。 ・ うまく当たればモデルの特徴をよくとらえた作品ということになることを伝えます。

(2) 自然物レストラン

活 動 内 容	留 意 事 項
<p>① 活動内容を知る。</p> <p>② メニューをグループごとに考える。</p> <p>③ 自然物を使った料理を作る。</p>  <p>④ おしながきを書く。</p> <p>⑤ 発表会を行う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中にある葉や石や小枝などを利用して、お皿の上に食事のメニューを作ることを知らせます。 ・グループごとにメニューを考えてもよいし、指定されたメニューを作らせてもよいでしょう。 ・できる限り落ちている自然物を利用し、折ったり抜いたりするのは最少限にとどめることを伝えます。 ・絵の具などで色を塗ることはできず、自然物の色で工夫することを知らせます。 ・料理を紙皿の上に美しく盛りつけます。 ・ウルシなどの植物について注意させます。 ・制作時間は、40分程度とします。 <ul style="list-style-type: none"> ・食材やメニューの内容が分かるように書かせます。 <ul style="list-style-type: none"> ・作品を持ち寄り、料理の説明、工夫した点や苦労した点について各グループごとに発表させます。

(3) その他の活動

① 森の美術館

自然の中にある葉や石や小枝、木の实などを利用して、画用紙をキャンパスに想像画を作り、手作りのイーデルに置き、互いの作品を鑑賞し感想を話し合います。

② 音取りゲーム

自然の中にある素材（石、枯葉、枝、幹、水等）を使い、こすったり振ったり、落としたり叩いたりしながら、ピング形式で指示された音を一人一人作り出します。また、数人で「音による物語」も作ってみるのもよいでしょう。

③ 森の動物園

それぞれが好きな動物を作って持ち寄り、森の動物園を作ります。作るのは顔だけでも体全体でもよいでしょう。画用紙に絵のように表してもよいし、組み立ててもよいでしょう。材料は、決められた場所で、木の枝や葉っぱ、草、石、木の实などの自然物を利用します。

ゆったりとやってみませんか！

1 自然学校のねらい

〈ねらい〉

子どもたちに自由な時間と活動の場、共に過ごす仲間のいる状況を保障して、仲間との連帯感にもとづく自主性、創造性を高める。

〈ねらいの設定理由〉

今の子どもたちをとりまく状況については、いろいろな報告がなされます。その中で、遊びの変化に視点をあてて子どもたちの姿をとらえたものがあります。

- ① 小集団化 ② 集団の同年齢化 ③ 道具、素材の同質化 ④ 遊びの同質化 ⑤ 室内化
⑥ 創造性の減少

うなずける点が多いと感じます。子どもたちの遊びには子ども社会と呼べるような、共に生きようとする仲間が生み出す連帯感と自主性、そこから生まれてくる創造性、多様性があったはずです。

大人になってしまった私たちは、子どもたちの遊びを支えてきた時間・仲間・空間が奪われつつあることを少なからず実感しているのではないのでしょうか。

その時間・仲間・空間を保障して、子ども社会の核となる自主性の高まりや連帯感の深まりをねらっていきたい。

2 フログラム展開

	午 前	午 後	夜	留 意 点
1日	グレンデリサーチ（班別で散策）			自分たちの過ごす環境を知らせる。
2日	遊び場作り（班別活動）			安全に留意し、子どもの創作力にゆだねる。班の協力を意識して活動させる。
3日	作った遊び場での活動			
4日	飯ごう炊さん（班別活動） フリープログラム【クラフト・自然観察館】（個人活動）			課題リストの活用
5日	登山（三室山：1358m）（一斉活動） フリープログラム【クラフト・自然観察館】（個人活動）			天候と安全に留意する。
6日	撤収活動（学級別または班別活動）			活動のまとめとして意欲づける。

3 指導上の留意点

自然学校は自由参加ではありません。子どもたちは特定の目標を持って集まった集団ではないわけです。教室よりは解放されているけれど、自分たちで選んだ場ではなく、子どもたちにとってはあくまでも与えられた場であることを念頭に置く必要を感じます。

自然学校の大きなねらいの一つが「自主性」であることを考えると、最初に見通しの持てる全体像を提示した後は、子どもたちの技能レベルには目をつぶっても、子どもたちが自分たちの力を出し合い仲間と共に何かを作り出す環境を保障していくことが大切だと感じます。そのことをふまえ、以下の事項を基本方針としました。

- ◎ 全体に対して明確な指示（時刻・場所・持ち物・対象者 etc）を出し、見通しを待たせる。

◎ 子どもたちを見守る姿勢を保つ。

とは言っても、安全面についての積極的な姿勢は必要です。危険が予測される状態のときには活動を止めても、危険要素を除いたり予測される危険について説明し理解させることが必要です。安全に配慮していない子どもたちの計画などには危険に気づかせる助言を与えます。

また、集団の中で不安定な要素のある子への配慮も必要です。以下の2点も大切にしていきます。

◎ 安全な環境を確保し、安全への意識を高める。

◎ 孤立しがちな子に配慮し、必要な援助を行っていく。

《時計の携帯》

時間の制約を子どもたちの身近なものにしておくことが自主性ある活動の保障につながると考え、子どもたちに時間の管理を委ねるために持参の時計を持たせることにしました。

《自由課題リスト》

フリープログラムや自由時間に、課題を持って意欲的に活動に取り組めるよう、参考図書から自然観察・工作・ゲームなどに関するものをリストアップした百頁余りの冊子を持たせておきました。

《プログラムの設定について》

ねらいを生かすためにも、一プログラムをゆったりとさせ、基本的な生活時間が保障されることを考え、原則的な活動として登山を後半に配置して達成感を持たせようと思いました。

《指導補助員の役割》

基本方針のもとに、子どもたちを見守る立場(近所の大人が仕事をしながらも子どもの遊びを見守っているようなイメージ)を求め、特定の班に付かないことにしました。また、子どもたちが分宿しているロッジを朝晩、ローテーションを組んで訪問してもらい、活動場面でない交流の機会ももってもらいました。

4 成果と課題

指示を出してしまえば子どもたちに活動をまかせてしまう。途中でよけいな制約が加わらないとき、子どもたちは伸び伸び力を発揮します。自分たちで工夫し、協力し、ロープや竹で松林の中で遊び場をつくり上げていった子どもたちの姿が印象的でした。活動を通して、子どもたちの新たな関係や交流が生まれてきたことを感じます。

反面、普段から集団の中で不安定な要素を持つ子には、細心の配慮を要します。日常からかけ離れた環境は解放感をもたらしますが、不安感の方が大きくなる子もいます。時間・仲間・空間の保障は遠くに出かけなくても出来るわけで、どんな子も安心して参加していけるようにするためには、日常とのつながりを持てる近い所での企画も必要だと考えています。

県立三室高原青少年野外活動センター

● 少なかった事前指導の時間

事前指導は、ねらい・概要説明・班編成等を中心に行い、プログラムに直接かかわることは、ロープワーク(1~2時間程度)以外には行いませんでした。事前指導の総時間としては、かなり少なかったと思っています。まだ直接現地を見ていない子どもたちに現地のプログラムを実感あるものとして事前指導するのは無理があります。やはり、子どもたちにとっては、現地に行ってまわりの様子を知ってからプログラムが始まるというふうに考えました。

● 教師の感覚の落とし穴

グレンデリサーチは自分たちの居場所を知るといっても大切な活動ですが、下見を繰り返した教師の現地に慣れた感覚でおさなりの散歩になってしまった感じがします。初めて来た時（初めて来た人）の感覚を大切にしたいポイントをおさえたていねいな説明も必要でした。

● 個人の選択プログラムと集団活動

フリープログラムは個人の自由な活動として実施しました。それぞれが好きなことをしたのですが、内容や質という点ではさほど深まりがあったとは言えない様子でした。でも、仲間との協力や集中力の必要な遊び場づくりや体力のいる登山といった集団としてのテンションの高い活動の間に個人の自由な活動を組み入れることは、集団と個人のバランスをとる上でとても大切なことだと考えています。個人活動の解放感が集団での緊張感ある質の高い活動を支え、集団活動のつながりやまとまりが個人活動での安定感や集中力を高めるといった効果もあるのではないのでしょうか。個人の意志が反映できる選択プログラムは大切ですが、それで集団活動が軽視されるものではないと思います。自然学校のねらいや子どもたちの実態にもとづけば、両者のバランスのとれたプログラム構成が重要だと言えます。

● フリープログラムにおける情報提供

フリープログラムの活動に深まりがみられなかったのは、情報提供の少ないまま、子どもたちまかせにしてしまったからだと感じています。参考資料としては内容のあるものを配布したつもりでしたが、具体的な活動イメージをふくらませるには十分ではなかったようです。子どもたちが意欲的に選択できるような具体的なプログラムを活動の前に紹介すべきだったと思います。

● むずかしい指導補助員の姿勢

指導補助員の立場にはむずかしいものがあります。子どもたちと仲良くなりたいという純粋な思いで気持ちよく子どもたちと接してくれますが、時に指導補助員に親密な思いを持ち、一対一の交流を深めようとする子どももでてきます。子どもたちには、「自分だけ」が前面にでる交流について指導する必要がありますし、指導補助員の側にも、全体に対してチームとして役割を担っていることを強調して、公平な姿勢を求める必要があります。

自然学校で楽しむ あそび100選



野山のあそび



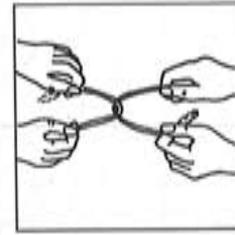
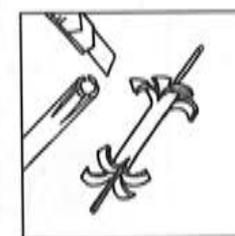
		あそびの概要	図
1	木立の中での かくれんぼ	<p>木立を利用してのかくれんぼ。おにに見つからないように木立の影や木の枝に登り、隠れる。全員見つかったら一番最初に見つかった人がおにとなる。</p> <p>季節：通年 準備物：活動範囲を示すためのロープまたはテープ 留意点：活動範囲の設定をする。危険な動植物についての認識・理解を図る。</p>	
2	手作り スランコ	<p>木の枝にロープをかけ、ブランコを作る。ロープだけでもよいが座るところを丸太などで工夫すれば安定したブランコができる。</p> <p>季節：春・夏・秋 準備物：ロープ2本程度、ハシゴ・脚立 留意点：木の枝の強度などを十分に確かめ製作にあたる。ブランコの下に岩や大きな石がないかなど安全についての確認を行う。</p>	
3	ターザン 遊び	<p>木の枝にロープを結び、そのロープにぶら下がり遊ぶ。ロープを握るところは結び目を作っておくと滑り止めになり持ちやすくなる。また、足をかけるところにも結び目を作ったり、小さい丸太を結び付けておくと足の置き場所となる。</p> <p>季節：春・夏・秋 準備物：ロープ3～4本、ハシゴ・脚立 留意点：ロープ及び木の枝の強度などを十分に確かめながら製作にあたる。活動場所となるところに岩や大きな石がないかなど安全についての確認を行う。</p>	
4	基地作り	<p>倒木や枯れ枝を集め木立ちなどを利用し、ロープなどで縛り林の中に基地（小屋）を工夫しながら作る。屋根などはシダで覆うなど工夫する。</p> <p>季節：春から秋 準備物：ノコギリ、ナタ、ロープ、ハシゴ・脚立等 留意点：じかに倒木や枯れ木などを手にするため、ウルシの木など危険な植物について注意するとともに、作業用手袋を必ず着用する。</p>	
5	そり遊び	<p>雪山の斜面を利用してのそり遊び。手作りそりの工夫、滑るコース、ジャンプ台の設置などをすると楽しさも倍増する。</p> <p>季節：冬 準備物：ソリ（ジャンプ台、コースを作る場合はスコップ） 留意点：手袋・帽子を着用する。コース設定は安全に活動できる場所を選択する。競争する場合は、隣との間隔を十分にとり行う。先に滑った人の後ろからスタートする場合も十分な間隔を取りスタートする。</p>	

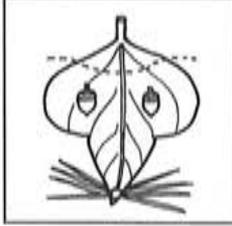
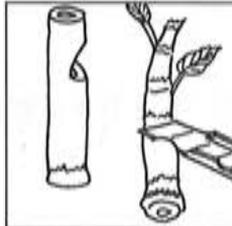
		あそびの概要	図
6	谷川の 水源探し	<p>谷川を沢に沿って登り、谷川の水源を見つける冒険遊び</p> <p>季節：春・夏・秋 準備物：マップ、コンパス、ロープ、マーカー用ビニールテープ、清水（500ml）、タオル、水筒、リュックサック 留意点：ヘルメット、登山靴、作業用手袋の着用。必ずグループを作り複数で活動する。危険なコースは避け、安全なコース取りをする。マーキングをしながら進むことを徹底する。</p>	
7	ラインナツ	<p>倒木や丸太の上にグループ全員が乗り、他のグループから出される課題をその倒木や丸太から落ちないで解決する遊び。落ちると他のグループと入れ替わりを行うとか、もう一度最初からやり直すとかルールは自分たちで決める。人数が少ない場合は課題を出す者と落ちた者とが入れ替わるといったルール作りをしても面白い。</p> <p>季節：通年 準備物：倒木や丸太を立木に固定するロープ2本 留意点：倒木や丸太が雨や夜露に濡れて滑りやすくなっていないか事前に確認する。周りに岩や大きな石など危険物はないか、安全に活動できるかなど確認が必要である。</p>	
8	ハンティング ゲーム	<p>野山、森の中でハンターと猟犬になって動物の名前が書かれているカードを探し出し、どのグループが多くのポイントを得られるかを競う遊び。猟犬役になった人は人間の言葉は発することができない。カードを見つけたら、犬の鳴き声でハンターにカードのある場所を教える。カードを手に行えるのはハンターだけ。</p> <p>季節：春・夏・秋 準備物：動物の名前が書いてあるカード…活動人数×2倍（例：30人で行う場合 リスのカード1ポイント30枚、かものカード3ポイント15枚、いのししのカード10枚5ポイント、かもしかのカード5枚マイナス10ポイント） 留意点：林間での活動の場合は、事前に有害な動植物の有無を確かめ、安全な場所で実施する。活動場所の範囲を明確にし、樹木や草花を必要以上に踏み荒らさない。活動終了後、残ったカードを回収する。</p>	
9	森の レストラン	<p>自然の中でいろいろな形をしたものや、絵の具では作れない色をしたものを見つける。そのようなものを探し、大きな葉の皿の上に食事のメニューを工夫して作り出す遊び。もちろん、本物ではなく自然の中にあるものを使って、それらしい料理の形にする。</p> <p>季節：春・夏・秋 準備物：接着剤、粘着テープ、タコ糸 留意点：あらかじめ周辺を調査し、危険な動植物がないかどうか確認し、活動範囲を明確にする。特に植物に関しては危険な植物を実際に提示し確認する。材料採集時は必ず作業用手袋を着用。活動終了後は材料をもとの場所に戻す。</p>	

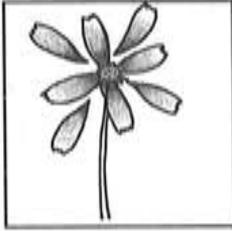
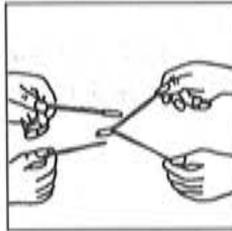
		あそびの概要	図
10	木の实拾い	<p>林の中を散策しながら、木の实（クヌギ、コナラ、クルミ、クリなど）を採集する。</p> <p>季節：秋 準備物：ビニール袋数枚（種類別に採集する）、作業用手袋 留意点：ウルシなど危険な植物の実物を提示し触らないよう注意する。活動範囲を明確にする。</p>	
11	木の葉隠れ	<p>落ち葉を多く集め、その木の葉の中に隠れる遊び。</p> <p>季節：秋 準備物：木の葉を集めるための熊手 留意点：長袖、長ズボン、帽子、作業用手袋を着用する。帽子についてはひさしのついたものが望ましい。</p>	
12	光の虫眼鏡 (夜の自然観察)	<p>自然観察は昼間だけの活動ではない。クワガタや蛾のような夜行性の生き物の観察にはむしろ夜の方が適している。普段見慣れた自然をより深くより感動的に観察することができる。簡単なロウソクランタンを作り、その柔らかな光を当て観察する。まるで虫眼鏡で観察しているような、そんな新鮮な発見が味わえる。</p> <p>季節：春・夏・秋 準備物：着火具（ライター、マッチなど）、ロウソク、アルミホイル、作業用手袋 留意点：事前に有害な動植物の有無を確かめ、安全な場所で実施する。夜間の活動であるため活動範囲の設定を行う。蛍光テープやロープなどで活動範囲を明確に示すようにする。</p>	
13	ナイト ハイキング	<p>夜のプログラムで、昼間とは全く異なった素晴らしい世界が味わえる。1グループ最大20～25人くらいが適当。初めはあまり起伏のない平坦なコースを選び、次第に難度を高めていく。初めは1時間から1.5時間くらいの活動がよい。</p> <p>季節：通年 準備物：ロープ、ライト、作業用手袋、救急用品、地図、コンパス、（場合によっては行動食） 留意点：必ず昼間にコースの下見（実踏）を行い、危険な場所のチェックを行う。リーダー以外は非常用ライトの点燈を控える。絶対に走らない。また、非常時以外大声を出さない。</p>	
14	闇の中の 音探し	<p>夜の森の中で数人が黒のビニール袋を身にまといバラバラに離れて隠れ、時々音を出す。出す音は全部違うものにする。グループで手をつなぎ森の中に入り音を聞き分ける。音を出している人を見つけ、見つけたことを証明するカードを受け取る。それぞれのカードから暗号を解きゴールする。</p> <p>季節：春・夏・秋 準備物：暗号カード、音の出るもの（数種類）、隠れる人数分の黒のビニール袋（大）、ロウソクランタン、作業用手袋 留意点：緊急時以外は無言で行う。活動範囲が明確に掌握できるように蛍光テープやロープなどで示す。暗すぎて危険度が高い場合はグループで1台だけロウソクランタンの使用を認める。長袖、長ズボン、帽子を着用する。</p>	

草花あそび



	あそびの名称	あそびの概要	図
15	スズメノ テッポウ笛	<p>スズメノテッポウを茎から折ってとる。穂の部分をついて引張って抜き、葉を折り曲げ口にくわえてふく。</p> <hr/> <p>季節：春 準備物：スズメノテッポウ</p>	
16	ススキの鉄砲	<p>ススキの葉を茎側から先の方へ、10cmくらいの長さに3つにさく。人差し指と親指で3つにさいた両はしの葉をはさむ。はさんだ2つの葉を引っ張り、真ん中の葉をとばす。</p> <hr/> <p>季節：春・夏 準備物：ススキの葉</p>	
17	オオバコすもう	<p>お互いのオオバコの茎を真ん中あたりでからめ、引っ張り合う。切れた方が負け。</p> <hr/> <p>季節：春・夏 準備物：オオバコの茎</p>	
18	タンポポの水車	<p>タンポポの茎をとってきて、3～4cmの長さに切る。両はしに1cmくらいの切れ込みを入れる。その切れ込みを入れた部分を水につけると反り返る。真ん中に細い枝を通して両端をもち、流れのある水につけると水車のように回る。</p> <hr/> <p>季節：春・夏 準備物：タンポポ、細い枝、小刀</p>	

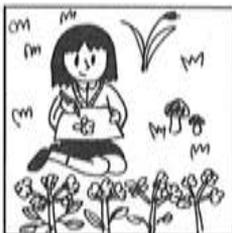
	あそびの名称	あそびの概要	図
19	虫かご作り	<p>同じ大きさを固い葉を2枚用意し重ねる。松葉を1cmほどの間隔で葉の形にそってさしていく。重ねた3枚の葉を上下に広げると虫かごが完成する。できた虫かごに虫を入れる。</p> <p>季節：春・夏 準備物：固い葉2枚、松葉</p>	
20	クズの葉のねずみ	<p>クズの葉の上部3分の1のところを切り落とす。木の実や種を木工用ボンドでくっつけ目や鼻を作る。同じようにして、松葉をくっつけヒゲを作る。</p> <p>季節：春・夏 準備物：クズの葉、松葉、木の実や種、木工用ボンド、はさみ</p>	
21	カズノコ草のかえるつり	<p>カズノコ草をとってきて、穂の部分の先端を1cm位を残し他をとる。カエルの鼻先へもっていき、振る。カエルがくわえたら素早くつり上げる。エノコログサでもできる。</p> <p>季節：春・夏 準備物：カズノコ草</p>	
22	イタドリのフューズー笛	<p>イタドリをとってきて両端を切り落とす。長さは10～15cmくらい。一方を斜めに切り落とす。その部分に切り込みを入れ、長方形に切った笹の葉を差し込み、口にくわえて吹く。</p> <p>季節：春・夏 準備物：イタドリ、笹、小刀</p>	
23	クズの葉てっぽう	<p>一方の手をすきまができるくらい軽くにぎる。その上にクズの葉をのせ、もう一方の手で強くたたくとポンという大きな音がする。</p> <p>季節：春・秋 準備物：クズの葉</p>	

	あそびの名称	あそびの概要	図
24	ねずみのしっぽ	<p>エノコロ草をとってくる。穂の部分を軽く握ったり、ゆるめたりすると、エノコロ草が少しずつ手の中から出てくる。 エノコロ草は茎側を上にして持つ。</p> <hr/> <p>季節：夏・秋 準備物：エノコロ草</p>	
25	コスモスの ヘリコスター	<p>コスモスの花を茎の部分から花びらを一つおきにとる。 コスモスの花を空に投げあげるとクルクル回りながら、落ちてくる。 茎の部分がまっすぐで長いものが多い。 滞空時間を競い合ってあそぶのも楽しい。</p> <hr/> <p>季節：秋 準備物：コスモスの花</p>	
26	マツ葉すもう	<p>マツ葉をとってくる。お互いのマツ葉をからめて、お互い引っ張り合う。切れた方が負けとなる。</p> <hr/> <p>季節：春・夏・秋 準備物：マツ葉</p>	
27	ヒイラギの風車	<p>ヒイラギの葉をとってきて、親指と人差し指で軽くはさむようにして持つ。息を吹きかけ、葉を回してあそぶ。</p> <hr/> <p>季節：春・夏・秋 準備物：ヒイラギの葉</p>	
28	ツバキ笛	<p>ツバキの葉の茎の部分をとる。茎側から葉を巻いていく。葉の真ん中ぐらまで指で押さえて、つぶす。つぶした方を口にくわえて吹く。</p> <hr/> <p>季節：春・夏・秋 準備物：ツバキの葉</p>	

自然観察や発見



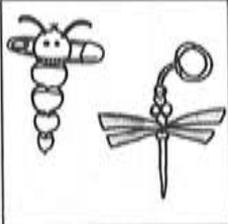
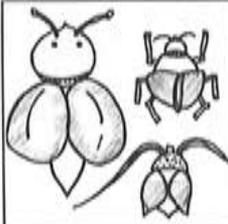
	あそびの名称	あそびの概要	図
29	虫探し	<p>落ち葉のある場所で1 m四方の中に肉眼で観察できる生き物がどれくらいいるか数える。また、何種類いたかもあわせて観察する。他の方法として、雑木林の中にルートを作り、樹木に見られる虫を探しながら歩き、どんな樹木に見られたかを観察する。</p> <hr/> <p>場 所：落ち葉のあるところ 準備物：ロープ、メモ帳</p>	
30	動物探し	<p>自然の風景や石、樹木、枯れ木等で見方によっては動物に見える場合がある。歩く中で自然に潜む動物を探していく。デジタルカメラで撮影し、全体の場で映像を見せてどんな動物に見えるか当てっこすることもできる。</p> <hr/> <p>準備物：デジタルカメラ、小型のスケッチブックまたはメモ帳</p>	
31	動物の足跡とり	<p>1 m四角の型枠をつくりその中に湿らせた砂又は粘土を敷き詰め中心にエサを置く。夜行性の動物の場合には夕方仕掛けを設置し、翌朝足跡を確認する。足跡の特徴などからその動物の大きさなどを想像する。図鑑などがあれば動物を特定することもできる。簡単にとるには、模造紙の中央にエサを置き、その周囲に墨汁を含ませた布などを置いておく。</p> <hr/> <p>場 所：動物の通りそうなところ。 準備物：墨汁、模造紙、布、エサ、ビニール袋、足跡が記載されているほ乳類の図鑑</p>	
32	クモの巣さがし	<p>コースを決める。クモの巣を見つけた場所を地図上に記録していく。クモの大きさ、色などの特徴も記録する。エサがクモの巣にひっかかっていたら数を数えたり、何がかかっているかを観察する。巣をつくらないクモもいるので地面も注意してみる。クモの種類をひとつに絞って何匹発見できるか競ってみる。クモの巣の大きさや形などにも注目しながら観察していく。</p> <hr/> <p>準備物：図鑑</p>	

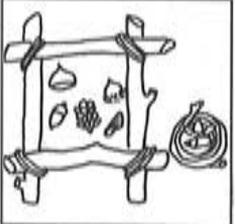
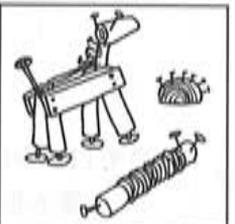
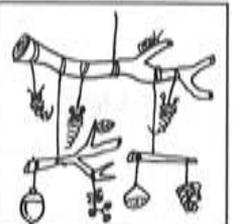
	あそびの名称	あそびの概要	図
33	バードウォッチング	<p>コースを決める。コースに沿って歩きながら鳥の数を数える。また、鳴き声が聞こえたら何種類ぐらいか聞き分けてみる。鳴き声を言葉で表現してもよい。海岸コースや山コースなどいろいろなコースをつくり、出会う野鳥の違いに気付く。エサをとったり食べる光景に出会ったらじっくり観察する。</p> <p>準備物：メモ帳</p>	
34	葉っぱの形	<p>スケッチができる準備をして、できるだけたくさんの種類の形を描き残していく。できれば樹木と草の区別はしておく。葉っぱの大きさを限定するのであれば、できるだけ落ち葉の新鮮なものを貼り付けていってもよい。袋に葉っぱを一枚入れ、手触りによって中に入っている葉っぱと同じ物を探してくる。</p> <p>準備物：メモ帳、ビニール袋</p>	
35	花のスケッチ	<p>自然界には目立つ花もあれば非常に目立ちにくい花もある。コースに沿って目立ちにくい花も含めて探していく。もし、キノコなども目につくようであればスケッチをし、本数を記録してみる。</p> <p>季節：春・夏・秋 人数：2～3人で班をつくりコースを歩く。 準備物：メモ帳またはスケッチブック</p>	
36	貝殻拾い	<p>海岸に出て、ある種類の貝殻の個数を決めて集めたり、何種類の貝殻が集められるかを競う。箱に5種類の貝殻を入れてふたをしておき児童に10秒間見せて箱に入っていた貝殻を記憶をたどって集める。ひとつの貝殻を穴をあけた箱の中に入れ、手触りで貝殻の特徴をつかみ、箱に入っている貝殻と同じものを見つけ出す。</p> <p>場所：海辺 準備物：箱</p>	
37	色探し	<p>色紙の中から色を指定し、指定された色を自然の中から探し出す。石・葉・鳥の羽根・花びら・木ぎれ・土など指定したもので色を探してもよい。自然の中では山の木々の葉っぱが微妙に色づいていたり、同じ樹木の葉であっても若葉から落ち葉へとしだいに変色していく。自然の色の変化を想像し各季節の山の色を描く。</p> <p>準備物：色紙、スケッチブック</p>	

	あそびの名称	あそびの概要	図
38	石あそび	<p>決められた数の石を上積み重ねるあそび。石でアーチ作りに挑戦したり、何段積み重ねられるかを競う。</p> <p>場所：海辺・河川敷の石の多いところ。 準備物：場合によっては作業用手袋</p>	
39	体で感じ取ろう	<p>となりの人と間隔を開け、目をつぶる。その状態で指示を出す。</p> <p>指示の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽の輝いている方向を指さしてみましよう。 ・ 風が吹いてくる方向を指さしてみましよう。 ・ 音が聞こえてくる方向に向きを変えてみましよう。 <p>一つ一つの指示の後、それぞれ目を開けて確かめ合う。</p>	
40	葉っぱ観察	<p>樹木の枝または雑草の茎に付いている葉っぱの付き方を観察する。葉脈の様子を観察する。</p> <p>準備物：メモ帳</p>	
41	音をキャッチ	<p>面用紙などでメガホン状の集音器をつくり耳に当てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 静かな所でいろいろな方向に集音器を向ける。 ・ どんな音が聞こえるか耳をすませる。 ・ 音の種類を書きとめる。 <p>お互いにどんな音を捕まえたか出し合う。</p> <p>準備物：手作り集音器、メモ帳</p>	
42	夕日との出会い	<p>日没30分前ぐらいから日没後1時間ぐらいまで西の空に注目する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空の色の変化を目に焼き付ける。 ・ 沈みかけてから沈み終わるまでの時間を予想する。 ・ 夕日の沈む位置を予測する。 ・ 一番星探しをする。 ・ 太陽が動いていくことを実感する。 <p>気付いたことを書きとめる。</p> <p>準備物：メモ帳</p>	
43	アニマルトラッキング	<p>野生動物が残した形跡からその動物の行動を調べる。足跡、樹木へのひっかき傷、エサ場、糞、体毛、巣、脱皮した皮など動物が残した痕跡を発見する。どんな動物がどんなことを考えていたのか、推理しながら野山へ出かける。泥のあるところや雪の上ではくっきりと足跡が残る。</p>	

自然物クラフト

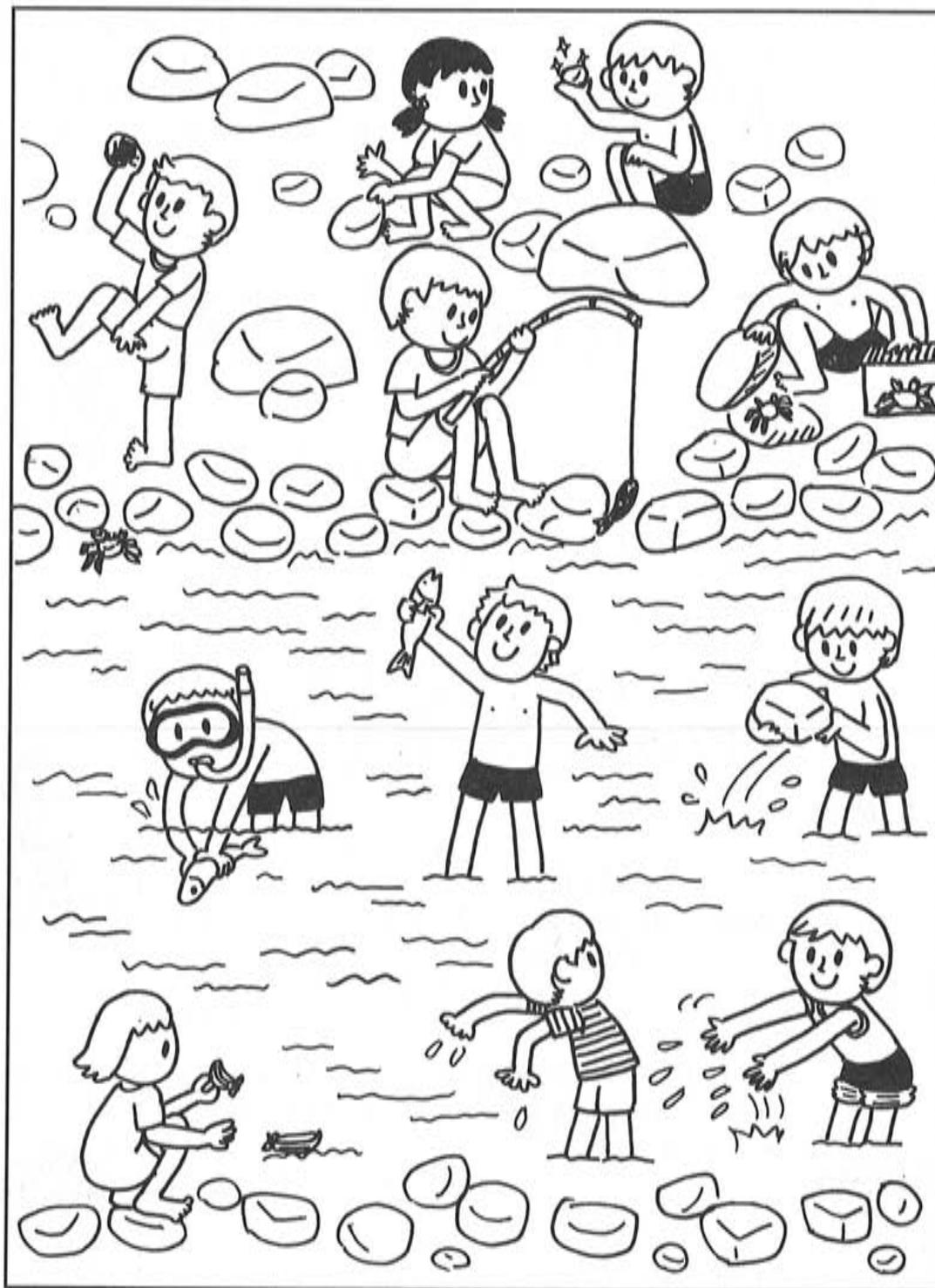


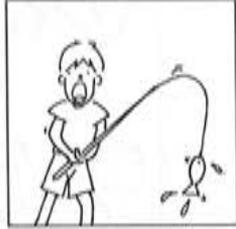
	あそびの名称	あそびの概要	図
44	竹楽器	<p>竹の表面にノコギリで溝をつけて、竹棒でこすり音を楽しむ(竹ギロ)。竹の表面に穴を開けて、息を吹き込み音を楽しむ(竹笛)。竹筒の中に、大豆、竹楽器ビーズ、小石などを入れて振って音を楽しむ(竹マラカス)。</p> <hr/> <p>準備物：青竹、ノコ、ナタ、キリ、輪ゴム</p>	
45	木の実のアクセサリー	<p>木の実や種などに穴をあけ、ひもを通してペンダント作りを楽しむ。小さな木の実のマスケット人形や飾りを作り、安全ピンを付けてブローチ作りを楽しむ。</p> <hr/> <p>準備物：針金、ひも、小刀、キ</p>	
46	木の実の動物や人形	<p>マツカサやクルミ、どんぐりなどの木の実と、ひもや針金、竹串などを接着させて動物や人形作りを楽しむ。つり下げたり、バランスよく置いたりできるようにするための工夫を楽しむ。</p> <hr/> <p>準備物：接着剤、ひも、針金、釣り糸</p>	
47	竹食器	<p>野外炊飯とセットで様々な竹を使った食器作りをする。実際に完成した竹食器を使って食事を楽しむ。 (おわん・はし・水筒・スプーン)</p> <hr/> <p>準備物：ノコ、ナタ、ヤスリ、小刀、接着剤</p>	
48	竹鉄砲	<p>細竹を使って竹鉄砲を作る。草の実や紙などを玉にして、飛距離を競う。的を段ボール紙で作って玉当てをして楽しむ。</p> <hr/> <p>準備物：ノコ、小刀、キリ</p>	

	あそびの名称	あそびの概要	図
49	木の枝 マスコット	<p>木の枝、輪切りの木などの自然の形状を組み合わせて、動きのある動物や人形作りを楽しむ。完成した作品に名前をつけてみるのも楽しい。</p> <hr/> <p>準備物：ノコ、キリ、小刀、接着剤、針金、ペンチ、ピンセット、剪定ばさみ</p>	
50	木の枝フレーム	<p>自然の木の枝を組み合わせて、写真や絵画を飾る額の枠作りをする。自分で撮影した「こだわり一枚」や写生画などを実際に飾ってみる。また、木枠にワイヤー、麻布、草花のツルなどを巻いて装飾を楽しむ。</p> <hr/> <p>準備物：接着剤、小刀、ペンチ、剪定ばさみ</p>	
51	草木ミニ タペストリー (壁掛け)	<p>段ボールの台紙に木ぎれや草木の実、皮などを接着剤でくっつけ、壁掛け作りを楽しむ。10cm四方程度の小さな台紙を数枚つなげると長い壁掛けにもなる。</p> <hr/> <p>季節：春・夏 準備物：ドライフラワー、接着剤、選定ばさみ 季節：秋・冬 準備物：木の実や種物、接着剤、剪定ばさみ</p>	
52	枯れ木の生き物	<p>少し大きめの枯れ枝に釘を打ったり、小枝を組み合わせて、生き物の土台づくりを楽しむ。毛糸やひもなどをぐるぐるに巻き付け、イメージする。立体的な生き物に完成させる。</p> <hr/> <p>季節：秋・冬 準備物：釘、カナヅチ、接着剤、ひも、毛糸、はさみ</p>	
53	小枝でつくる モビール	<p>木の枝にモールで作った毛虫をつり下げたり、枝をはわせたりしてモビールを作る。小枝を数種類用意して、草木の実や小石で作った虫、または、ボタンやビーズなどをバランスよくつり下げてみる。</p> <hr/> <p>準備物：針金、ピアノ線、糸、接着剤、小刀</p>	

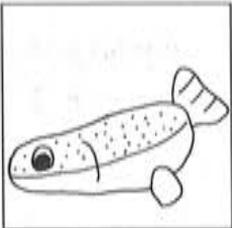
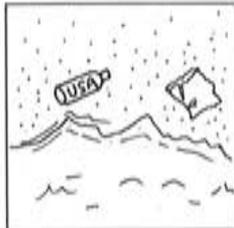
	あそびの名称	あそびの概要	図
54	森のリース	<p>丸い飾り（リース）状にできるツタやツル性の草木を採集する。それらを巻いてリースの輪を作る。また、木の実や種、枯れ葉などを接着剤や針金でとめる。リボンなどでクリスマス用にアレンジできる。</p> <hr/> <p>季節：秋・冬 準備物：接着剤、針金、リボン、剪定ばさみ、クリアラッカー</p>	
55	木の実のツリー	<p>紙粘土で円錐形の土台を作り、その表面に松ぼっくりの弁や木の実、種などを貼り付ける。木の枝やモール、小さいベルなどを付け加えて、クリスマスのオーナメントらしく装飾する。</p> <hr/> <p>季節：秋・冬 準備物：紙粘土、接着剤、剪定ばさみ</p>	
56	森の家のオルゴール	<p>市販の小型オルゴールを用意し、輪切りの板や枯れ枝を土台にオルゴールを固定し、その周囲を木の実や枯れ草などで森の小屋風に装飾する。</p> <hr/> <p>季節：秋・冬 準備物：小型オルゴール、接着剤、ノコ</p>	
57	トウモロコシの皮人形	<p>トウモロコシや竹、枯れ木などの皮を使って、マントや毛皮をイメージして人形や動物を作る。小さい瓶やボール紙、紙粘土を土台にすることもできる。</p> <hr/> <p>準備物：ひも、針金、接着剤、はさみ</p>	
58	豆人形のパーティー	<p>木の丸太を土台に、大きめのピーナッツやそら豆、大豆、黒豆などの形や色を工夫して、人の形や動物を作る。野菜や果物も作れる。</p> <hr/> <p>準備物：接着剤、剪定ばさみ、アクリル絵具</p>	

水辺でのあそび

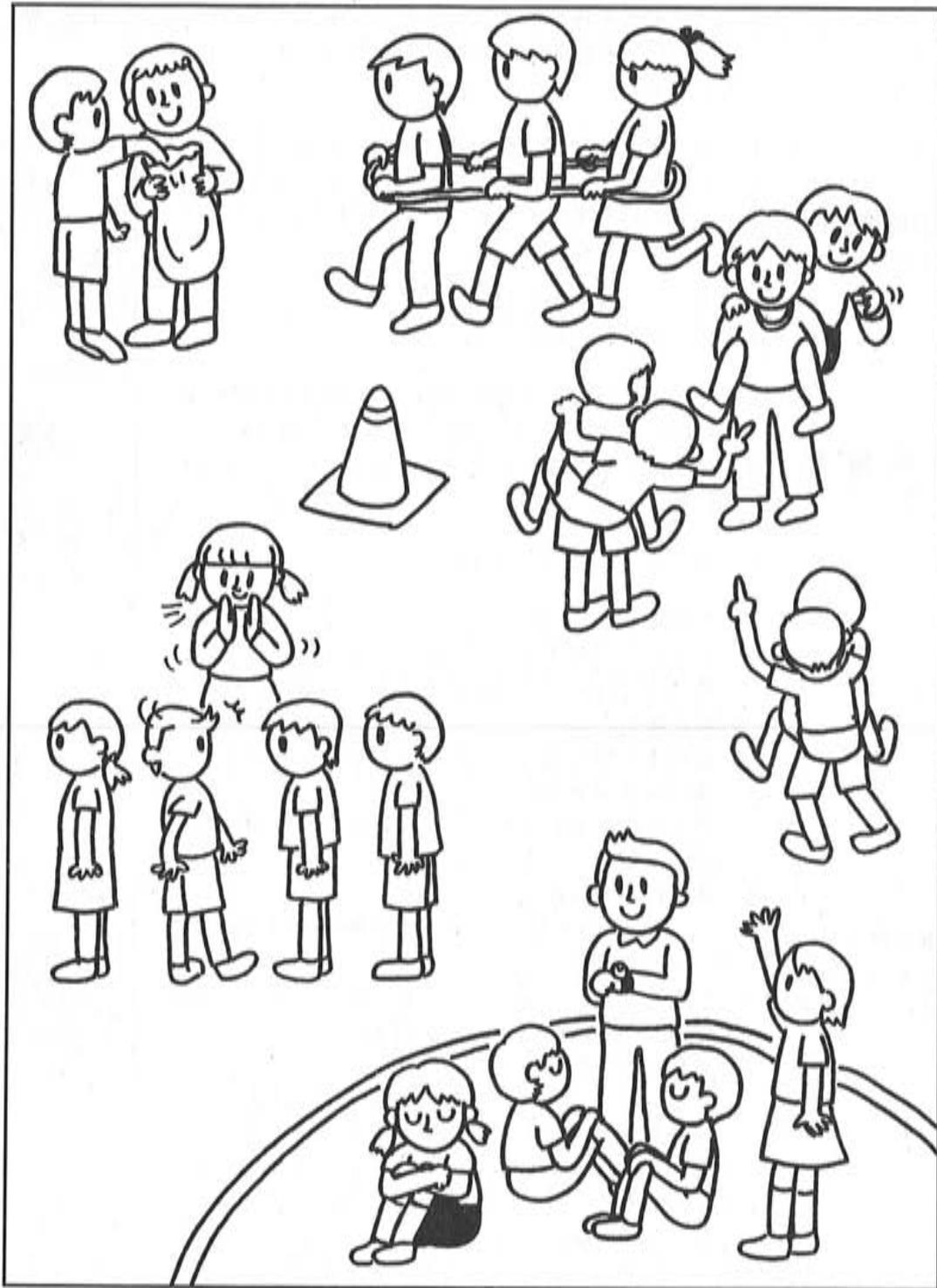


	あそびの名称	あそびの概要	図
59	川あそび	<p>清流に手や足をつけたりしながら、自然とのふれあいを深める。また、生き物を探したりして、自然とのふれあいを楽しむ。水鉄砲や笹船などを持参して遊ぶのもよい。素潜りも楽しい。</p> <hr/> <p>季節：春・夏・秋 準備物：着替え 留意点：グループで行動する。川の深みや流れに注意する。</p>	
60	魚釣り	<p>魚釣りの場所を選ぶ。季節や場所によりエサの種類などを考える。どんな魚が釣れたかを話し合う。漁業権が設定されている場所では、必要に応じて事前に許可を得る。</p> <hr/> <p>季節：春・夏・秋 準備物：釣り竿、うき、おもり、エサ、バケツ、長ぐつ</p>	
61	魚つかみ	<p>魚をつかむ区域を決める。石の下や草が繁った川岸にいる魚もとってみる。どんな種類の魚がいたのか話し合う。水生生物を採集してみるのも楽しい。</p> <hr/> <p>季節：春・夏・秋 準備物：着替え、たも、バケツ、タオル、ゴム草履や長ぐつ</p>	
62	サワガニ相撲	<p>谷川に入ってサワガニを見つける。サワガニをテーブルの上ののせて相撲をとらせる。テーブルから先に落ちた方が負け。</p> <hr/> <p>季節：春・夏 準備物：バケツ</p>	

	あそびの名称	あそびの概要	図
63	笹舟であそぶ	<p>笹の葉の両端を折り返し、三つにさいて切り込みを入れる。切り込んで三つに分かれた両端をはめ込んで作る。笹舟を浮かべる。木の枝や枯れ葉なども浮かべてレースをしよう。ショウブなどでもできる。</p> <p>季節：通年</p>	
64	石投げ(水切り)あそび	<p>川や池などの水面に石を投げ、水面を何回パウンドさせることができるかを競うあそび。水切りともいう。友だちと話し合って、うまく飛ぶ石を集めてみよう。</p> <p>季節：通年</p>	
65	川石造形あそび	<p>ジャモン岩を見つける。どんな形の石にしようかを考え、必要な大きさに割る。サンドペーパーで磨き、艶を出す。</p> <p>季節：通年 準備物：石磨き用のサンドペーパー</p>	
66	貝殻あそび	<p>穴のあいた貝殻を集めてひもを通してペンダントを作る。竹ひごを利用すると、貝殻モビールができる。</p> <p>季節：春・夏 準備物：ひも、竹ひご、接着剤</p>	
67	シーサイドウォーキング	<p>水温、水圧、水量、水の流れを五感で感じながら、海岸を歩いてみる。磯の生き物探検隊を結成するとおもしろい。磯で発見できる生き物のリストを作ってみる。</p> <p>季節：春・夏・秋</p>	

	あそびの名称	あそびの概要	図
68	いかだあそび	<p>がんじょうで浮力のある材料を使っていかだを作る。丸太、ドラム缶、発砲スチロール、タイヤチューブなどをしっかりと結び付ける。かいには竹を利用する。</p> <p>季節：夏 準備物：丸太、ドラム缶、発砲スチロール、タイヤチューブ、竹 留意点：ライフジャケットを着用する。</p>	
69	ストーンペインティング	<p>川原の石の中から、おもしろそうな形で、お気に入りの石を選ぶ。石を洗って、泥をおとす。石に絵を描いてみる。石を動物や植物などに変身させる。友だち同士作品を見せ合いながら、工夫したところを話し合う。</p> <p>季節：通年 準備物：アクリル絵具、細筆、パレット、水入れ、新聞紙、布</p>	
70	流木細工	<p>水辺に流れ着いた流木をよく洗って乾燥させる。創造力やアイデアを生かして好みの形に仕上げる。つや出しのニス塗る。木よじれ、ねじれ、からまりなどを利用する。</p> <p>季節：春・夏・秋 準備物：ナタ、ノコ、キリ、ヤスリ、サンドペーパー、ニス、接着剤</p>	
71	潮干狩り	<p>いろいろな貝を探す。どんな貝が収集できたか図鑑やインターネットを使って調べてみる。</p> <p>季節：春・夏 準備物：スコップ、バケツ、熊手</p>	
72	ビーチコーミング	<p>季節風などで寄せ返す波が砂浜にいろいろな物を打ち上げる。漂着物を拾い集めながら、海の自然や他国の文化に親しむ。海からの贈り物は一体何でしょう。</p> <p>季節：通年 準備物：ビニール袋、バケツ、作業用手袋、長靴</p>	

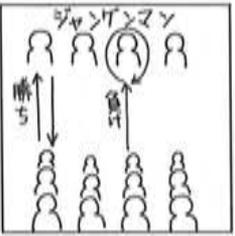
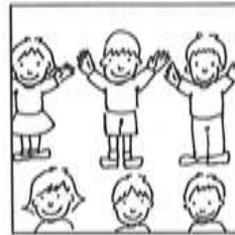
屋内でもできる集団あそび



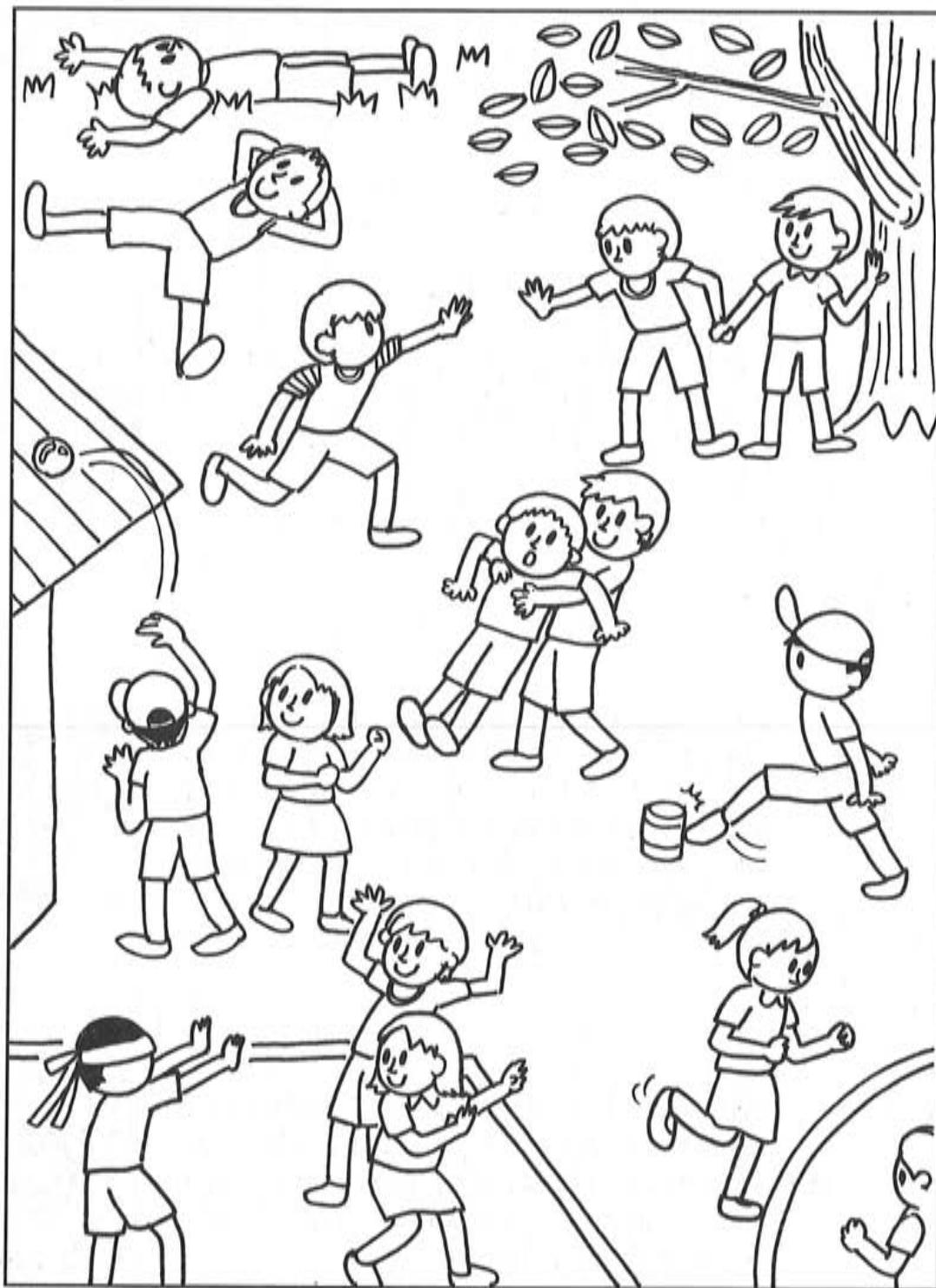
	あそびの名称	あそびの概要	図
73	ハンカチ拍手 (導入)	<p>1 「ソーレ」のかけ声とともにリーダーはハンカチを投げ上げ、落ちてきたハンカチをつかむ。</p> <p>2 参加者はハンカチがリーダーの手から放れている間拍手をする。</p> <hr/> <p>形 態：リーダー対参加者 準備物：ハンカチ</p> <p>※ ハンカチを投げるまねをしたり、落ちてきたハンカチをわざと拾わなかったり変化をつけるとおもしろくなる。</p>	
74	1分間テスト (導入)	<p>1 リーダーの合図で参加者は目を閉じて座る。</p> <p>2 合図から1分たったと思った人から立ち上がる。</p> <p>3 全員が立ち上がったら、1分に近かった人をリーダーが紹介する。</p> <hr/> <p>形 態：リーダー対参加者 準備物：ストップウォッチ</p>	
75	方向感覚 (導入)	<p>1 リーダーの拍手の数で参加者は体の向きを変える。 1回=90°右、2回=90°左、3回=まわれ右</p> <p>2 最初は目を開けたままで、慣れてくれば目を閉じて行うとおもしろい。</p> <hr/> <p>形 態：リーダー対参加者</p>	
76	ジャンケン バリエーション (アイスブレイキング)	<p>1 勝ち抜きジャンケン リーダー対参加者でジャンケンをする。 勝ちまたはあいこの人はそのまま、負けた人はその場に座る。 最後まで勝ち残った人がチャンピオンになる。</p> <p>2 負け抜きジャンケン 勝ち抜きジャンケンの逆。最後まで負け続けた人がチャンピオンになる。</p> <p>3 後出しジャンケン 「ジャンケン・ポン・ポン」の言葉に合わせてリーダー対参加者でジャンケンをする。 最初の「ポン」でリーダーが、後の「ポン」で参加者はリーダーに勝つものを出す。</p> <p>4 ジャンケンラリー チェックポイントになる人を数カ所に配置する。 参加者はスタートの合図で第1チェックポイントへ走り、リーダーとジャンケンする。勝てば次のポイントへ進む。負ければどのチェックポイントであってもスタート地点に戻る。 一定時間内に何人ゴールできるかを競う。</p> <hr/> <p>形 態：リーダー対参加者</p>	

	あそびの名称	あそびの概要	図
77	ジャンケン バリエーションⅡ (アイスプレイキング)	<ol style="list-style-type: none"> あっち向いてホイ！ 2人組でじゃんけんをする。勝った人は負けた人の顔の前に人差し指をもっていき「あっち向けホイ！」と言いながら、上下左右いずれかの方向に指を指す。その方向に顔を向けたら負け。 ジャンケンミキシング 2人組でジャンケンをする。負けた人は勝った人をおんぶして別の組を探し、上の人同士でジャンケンする。負け組は勝ち組をおんぶする。それを繰り返す。 ジャンケン列車 近くの人とジャンケンをする。負けた人は勝った人の後ろから肩に手をのせ列をつくる。これを繰り返す。最終的に先頭の人チャンピオンになる。 (一重円をつくりたいときに有効) <p>形態：参加者対参加者</p>	
78	数集まり (アイスプレイキング)	<ol style="list-style-type: none"> リーダーが「ソーレ」と言って拍手をする。 (1回、2回、3回と順に数を増やす) 参加者はリーダーのかけ声の後、リーダーと同じように手をたたく。 リーダーが「そこまで」と言ったら、そのときにした拍手の数で集まる。 <p>形態：リーダー対参加者</p>	
79	ジャンケンたたき (共に楽しむ)	<ol style="list-style-type: none"> 2人組になって左手の手のひらをあわせ、右手でジャンケンをする。 勝った人は相手の手をたたき、負けた人はたたかれないように上か下へ逃げる。 相手をどんでんかえてジャンケンを続ける。 <p>形態：参加者対参加者</p>	
80	魂の握手 (共に楽しむ)	<ol style="list-style-type: none"> 2人組になり、お互い心の中で声を出さずに1～3の数を決める。 「セーノ」の合図で、心に決めた数だけ相手の手を握る。 お互いに同じであればその場に座り、違っていればまた次の相手を探す。 <p>形態：参加者対参加者</p>	
81	キャッチ (共に楽しむ)	<ol style="list-style-type: none"> 一重円になり、左手の人差し指と親指で輪を作り、左隣の人の前に差し出す。 差し出された輪の中に右手の人差し指を差し込む。 リーダーは「キャッ、キャッ、キャッ、……」とコールする。 リーダーが「キャッチ」と言ったら左手は相手の指を逃がさないように、右手は相手に捕まらないように逃げる。 <p>形態：リーダー対参加者</p>	

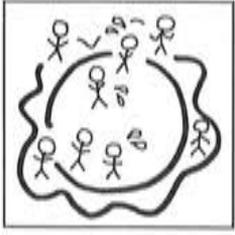
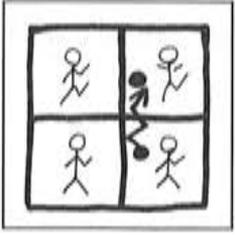
室内でもできる集団あそび

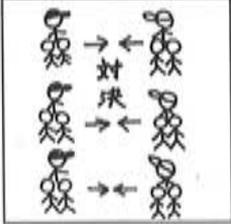
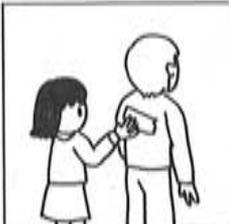
	あそびの名称	あそびの概要	図
82	関所破り (協力する)	<ol style="list-style-type: none"> 1 班ごとにジャンケンマン1人を決める。 2 ジャンケンマンは別のグループの前に数メートル離れて立つ。(各グループの距離が同じになるように) 3 「よーいドン」の合図で、先頭の方は自分のグループの前に立っているジャンケンマンの所まで走り、ジャンケンをする。 4 勝った人はそのままグループの次の人にタッチをする。負けた人はジャンケンマンの周りを1周してジャンケンをする。これを勝つまで繰り返す。 5 順番にリレーし、最後の方が早くゴールしたチームの勝ちとなる。 <p>形態：班対抗</p>	
83	すき焼き ジャンケン (協力する)	<ol style="list-style-type: none"> 1 班ごとにジャンケンの順番を決める。 2 順番にリーダーのところへ走り、リーダーとジャンケンをする。 3 勝ったら袋の中からカードを1枚持ち帰り、負けたらそのまま帰って、次の人にタッチする。 4 早くすき焼きの材料を集めたチームの勝ちとなる。 <p>形態：班対抗 準備物：材料を書いたカード、袋 ※ はじめに材料をみんなで確認しておく</p>	
84	電車競争 (協力する)	<ol style="list-style-type: none"> 1 紙テープで輪を作り、その中にグループ全員が入る。 2 スタートの合図で、ゴールまで競争する。 3 紙テープが切れたらその場で止まり、結び直してから再びスタートする。 <p>形態：班対抗 準備物：紙テープ</p>	
85	間違いの構図 (協力する)	<ol style="list-style-type: none"> 1 片方のグループが一つのポーズを決める。 2 もう一方はそれをよく観察する。 3 一定の時間が過ぎたら、観察グループは後ろを向く。 4 観察グループが後ろを向いている間にポーズを変える。(6カ所ぐらいがよい) 5 観察グループは向き直って、変えたポーズを見つける。 6 役割を交代して、間違いを見つけた数の多さで勝敗を決める。 <p>形態：2チーム対抗</p>	
86	アウト・セーフ (協力する)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ジェスチャーの練習をする。 正しい=セーフと言いながら両手を広げる。 間違い=アウトと言いながら右手を握ってあげる。 2 リーダーが問題を出す。 3 各グループで相談する。 4 リーダーが「いかがでしょうか?」とコールしたら、グループ全員でセーフかアウトかを示す。 5 正解の数で勝敗を決める <p>※ グループの中に1人でも違うサインを出した人がいたらそのグループは不正解とする。</p> <p>形態：班対抗 準備物：クイズ</p>	

大きな集団でできるあそび



	あそびの名称	あそびの概要	図
87	かくれんぼ	<p>まず鬼を決める。鬼は自分の陣地で目をつむって100数える。その間に他の人はどこかに隠れる。数え終わったら、鬼は人を捜しに行く。誰か見つけたら、その人の名前を大きな声で叫び、陣地にタッチする。見つけられた人は、鬼よりも早く鬼の陣地にタッチすれば鬼の負けになる。また、誰かが鬼に見つけられる前に鬼の陣地にタッチすれば、鬼は負けとなる。</p>	
88	鬼ごっこ	<p>まず鬼を決める。鬼は他の人にタッチする。タッチされたら鬼は交代する。バリエーションとして「いろ鬼」「高鬼」などがある。「いろ鬼」は鬼が色を指定して、その色をしているものにさわっているときは、タッチされない。「高鬼」はフィールドよりも高いところにいる間はタッチされない。 鬼が増えていく「鬼ふえ」というルールもある。</p>	
89	陣取り	<p>2チームに分かれて、適当に離れたところに、自分たちの陣地を決める。自分の陣地から出発して相手に捕まえないように相手の陣地に着いたら勝ち。相手に捕まるのは相手の方が新しく陣地から出た時で、常に新しく陣地を出た人が強い。捕まったら捕虜になり、相手の陣地につながる。</p>	
90	探偵	<p>探偵とぬすびとの2チームに分かれて、探偵はぬすびとを捕まえる。ぬすびとをつかんで10数えると、つかまれたぬすびとは捕虜となり、探偵の陣地につながる。ぬすびとは探偵に捕まらなければ捕虜を助けることができる。全員捕まれば終わり。</p>	

	あそびの名称	あそびの概要	図
91	人間 アスレチック	<p>まず2チームに分かれて、どちらが先にアスレチックコースのアトラクションになるか、コースを回るかを決める。そして、チーム内でさらに適当な小グループに分かれる。それぞれのグループで、自分たちがどんなアスレチックコースのアトラクションになるのかを考える。それから、コースが周回となるように適当な位置に散らばる。コースを回る人は競争するのではなく、自分の体力にあったペースで回る。</p>	
92	S け ん	<p>フィールドに大きなS字を描き、自分たちの陣地を決める。その中にフラッグまたは踏みつけるための円を描く。相手陣地のフラッグまたは円にたどり着ければゲームセット。ルールとして、S字の線はまたいだり飛び越えられない。陣地の外はケンケンでしか移動できない。ケンケンで移動中にこけたり、両足が着いたら陣地から再スタートしなければならない。</p>	
93	ボールあて	<p>まず鬼を決める。全員が屋根の下で待機し、鬼が屋根の上にボールを投げる。鬼はボールが屋根の上にとどまっている間に次の鬼の名前を叫ぶ。呼ばれた者はボールが地面に着く前にキャッチしなければならない。もし鬼が、ボールを落としたら、その瞬間鬼以外の者はダッシュで逃げる。鬼はボールを拾ってその時「止まれ！」と大声で叫ぶ。その場で全員ストップする。鬼は自分のいた場所から5歩移動して、誰かにボールを当てる。当たれば鬼を交代する。</p>	
94	うずまき	<p>地面にくねくねした1本の線を描く。(うずまきもある) その両端に2チームが1列で待機する。先頭の人と同時にスタートして線に沿って走る。出会ったところでジャンケンをする。勝てばそのまま線に沿ってすすみ、負ければ次の人がスタートする。相手の陣地に入ったら勝ち。</p>	
95	てんたい (てんちょ)	<p>地面に「田」の字を描く。1人で1つのマスを自分の陣地にする。ボールを一度自分の陣地についてから、だれかの陣地に入れる。ミスしたら負け。4つの場所に1. 2. 3. 4と位を付けて、負けたら入れ替わるのもよい。地面に「日」の字を描いて、2人でもできる。</p>	

	あそびの名称	あそびの概要	図
96	ネイチャー ヒヤリング	芝生に寝っ転がり、リラックスする。使える全ての五感を使って自然を感じる。目を閉じててもよい。季節により、においや音の違いがわかる。	
97	帽子取り (騎馬戦)	3人で土台を組む。その上に帽子をかぶった人が乗る。2チームに分かれて時間を決めて団体戦を行う。多くの帽子をとったチームが勝ち。騎馬から落ちたり、騎馬が崩れた場合は負けとなる。ケガをしないように十分注意をする。	
98	めつぶり鬼	フィールドに4~5mの四角を描く。鬼は目隠しをしてその中にいる人を捕まえる。鬼は交代したり、手をつないで増やしていてもよい。	
99	缶けり	まず鬼を決める。地面に立てた缶を鬼以外の人が蹴る。おには蹴られた缶を拾ってきて元の場所に置き、その場所で目をつぶり50数える。その間にみんなは隠れる。それから鬼はみんなを探し始める。見つけるたびに「〇ちゃん、みつけ」と言って缶を踏む。見つけられた者は、鬼が名前を叫んでから缶を踏むまでに缶を蹴ることができれば捕まえられない。また、鬼が誰かを探している間に誰かが缶を蹴ると、鬼は再び缶を元の場所に置いて50数えるところから再開する。	
100	私はだあれ	互いに相手の背中にガムテープを切って貼り付ける。相手にわからないように連想した動物の名前をガムテープに書く。周りの人に質問しながら、自分の背中に書いてある動物を当てる。たとえば、「私は森に住んでいますか」という質問をする。質問に対する答えは「はい」「いいえ」「わかりません」の3つ。私の名前がわかったら、ゲームのリーダーに確認してもらおう。合っていれば、背中のガムテープをはずしてもらおう。	

活動の留意点

● 野山のおそび

野山や森、林でのおそびの中で注意しなければならないのは危険な生物です。それらのほとんどは、触らなければまず平気です。しかし、自然の中で何にも触らないで活動することはまず考えられません。

植物によるかぶれの場合、中にはウルシの木のそばを歩いただけでかぶれてしまうという人もいますが、直接触っていないくても、ウルシの成分が付着していたり、ウルシの葉に付いていた雨の水滴や露が飛散し、体に付着するケースもあります。防衛策としてはその物質に触れにくくすることが大切です。

アブやササダニ、蚊のような刺し毒による被害も当然のことながら、刺されにくくすることが最大の安全策となります。

したがって、シーズンを通して、できるだけ長袖、長ズボンに靴下の着用を基本としなければいけないことは言うまでもないことです。もちろん、暑い夏の日でも同様です。また、おそび場所の状況にもよりますが、生い茂る草むらの中でおそび場合には、作業用手袋やひさしのついた帽子なども必需品です。

履物は、活動しやすい運動靴が基本ですが、状況や場合によっては長靴も考えられます。

(1) 危険な植物

おそびの場所が野山や森、林を主とする場合、次のような危険な樹木や草花を頭に入れておきたいものです。

○ ウルシ

ウルシは最もよく知られている危険な植物です。最もよく知られているということはそれだけウルシによってかぶれる事例が多いということを意味しています。

ウッドクラフトで知らないうちにウルシの木を使っていたという例も数多くあります。



○ キョウチクトウ、ドクウツギ、アセビ

樹液を直接なめたりしてはいけない植物です。これらの木の枝を箸の代用にしたため、大きな事故につながった例も報告されています。

○ ノイバラ

他の雑草に紛れて繁殖し、そこへいったん足を踏み入れるとどうしようもない状態になってしまうので注意したいものです。

○ トウダイグサ、クサウルシ、タケニグサ、クサノオウ

乳液を出し、かなりの刺激毒を持っているといわれます。これらはどこにでも繁殖している植物です。

○ キツネノボタン

かわいい花と、金平糖のような実をつけることで親しまれているキツネノボタンには強い毒性があります。気軽に摘み取られる可能性が高い草花なので、摘み取った手で顔や口元を触らないよう注意したいものです。

これらの植物は「森のレストラン」「リース作り」などの活動では十分注意が必要です。

(2) 危険な生き物

危険な生き物については、前述したアブやササダニの他に春から秋、特に秋口に被害が多く出るのがスズメバチです。スズメバチはカブトムシやクワガタなどと同様に、クヌギなどの樹液を好みます。

したがって、子どもたちのあそび場所になりやすいところに多く出没すると考えなければなりません。

スズメバチの巣を見つけたら、その巣に近づかないことが大切です。スズメバチは早い動きに反応しますので、巣の近くに踏み入ったとしても慌てずにその巣から真っ直ぐに遠ざかるようにしなければなりません。スズメバチは攻撃する前にカチカチと音を立てて威嚇します。その音を聞いたならその場から遠ざかることが肝要です。

また、野山のあそびでは、マムシやヤマカガシといった毒蛇についても予備知識が必要とされます。かまれたあとの処置法については、慌てて走ったり、動いたりせず、静かに落ち着いて行動し、とにかく病院に行き手当てを受けることです。マムシのジャンプ力といっても30cm位ですので、長靴を履くなどしておれば大丈夫です。

その他、気をつけたい生き物としてムカデ、ヤマビル、ツツガムシなどがあります。

野山や森、林でのあそびで安全上留意しなければならないのは服装です。なるべく肌が露出しない服装を心掛けることが一番の条件です。

● 自然物クラフトあそび

自然の中に落ちている素敵なものを探してください。自分のアンテナをピンと立てていれば、きっと何か気になるものが見つかります。落ち葉、枯れ枝、石ころ……。普段なら見逃してしまうようなものの中に宝物があります。

奇妙な形になった木の枝。ざらざらとした手触りが気になる石。艶やかな輝きのある木の実。色、形、感触、そのどこに心引かれるのか分からない時も、出会ったことの感動を大切に、じっくり見つめることが大切です。何に見えてくるか、それが大切です。

足もとに落ちている一本の枯れ枝に気づいてください。それは何かに見えませんか。誰かに似ていませんか。その枯れ枝はあなたに何かを語りかけてきませんか。ここからこの自然物クラフトのあそびは始まります。

よく目を凝らして、耳を澄ませて、五感を総動員してすてきな手がかりを見つけてください。難しい技術や高価な道具は必要ありません。半分は自然がつくってくれているのですから……。

知っておきたい自然物クラフトの基本

○ 竹の割り方

- ・竹の節を見て、皮のむけた部分のあるのが下側。常に上から下方向に割ります。
- ・竹の切り口にナタをあて、ナタの背を木槌で打って割ります。

- ・竹をナタで割る際に、ナタの刃を保護するためにも、板や木を輪切り状にしたものなどの上で行うことが必要です。
- ・ナタは素手で持つように心掛けたい。皮の作業用手袋などの場合は滑りにくくてよいのですが、木綿やビニール製の作業用手袋は手元が滑りやすくなり、かえって危険度が高くなるので十分注意したいものです。
- ・竹を持つ方の手は安全のため、作業用手袋をすることが大切です。

○ 木の割り方

- ・木の割り方は竹の場合と反対で、株に近い方から上（先）の方向に割ります。
- ・割り方及び安全についての留意点は竹の場合と同様です。

○ ノコの使い方

- ・両刃ノコには縦引き用と横引き用があり、板の木目に合わせて使い分けます。板の目に沿って切る場合はノコの目の粗い方（縦引き）を使用します。また、板の目に対して垂直に切る場合は目の細かい方（横引き）を使用します。
- ・ベニヤ板や薄い板を切る場合は、目の細かい横引きを使用します。
- ・竹や木の枝を切る時には、しっかりと押さえ最初の一切りを前方向に軽く動かして、刃の入る筋をいれると刃先がずれにくくなります。
- ・ノコは押す時に力を入れるのではなく、引くときに力を入れるようにすれば、スムーズに切ることができます。

○ クラフトナイフの使い方

- ・ナイフを持つ手はナタと同様、素手で持つのが望ましい。もう片方の手は安全のため作業用手袋をしましょう。
- ・右利き用、左利き用とあるので使用前のチェックが必要です。
- ・使用しない時は刃の部分をさやに入れ安全を心がけることが大切です。

○ 換気に注意

- ・接着剤、塗料などの使用及び電動系ノコなどの使用の場合は窓を開けたり、換気扇を使用し空気の還流に配慮が必要です。

○ 作業スペースの確保

- ・多人数で行う場合、隣の人との感覚は十分ゆとりをもたせることが大切です。窮屈な場所での作業は危険を伴うため、ゆとりのある作業スペースの確保が必要です。

○ 応急処置の知識

- ・クラフト活動では鋭い刃物等を使用するため、切り傷、刺し傷を負うことが多々あります。このような傷を負った時の応急処置の仕方を身に付けておきたいものです。切り傷などで出血したときの止血方法、金づちを使用しているの打撲時の処置など基本的な応急処置の仕方を身に付けておくことが大切です。

五感というアンテナを高く立て、自然の中の落し物に対してインスピレーションを働かせ、安全に十分留意しながら作品を作り上げてください。きっと、世界に二つとない大切な宝物となることでしょう。

● 水辺のあそび

水辺であそぶのはとても気持ち良く楽しいものです。しかし、自分の希望通りの場所を見つけるまでが一苦労ですが……。あそびに最適な場所が見つかり、泳いだり、潜ったり、飛び込んだり、また、岸では水切りあそびをしたり、石に絵を描いたり、流木でクラフトを楽しんだりと様々な楽しいあそびが待っています。

いうまでもなく、水辺のあそびは「水」とのかかわりの中で行われる活動であり、自然の中で人間の水に対する適応能力を高めることにもつながります。

しかし、楽しい水辺でのあそびの中には常に危険が潜んでいるため、常に安全を最優先して行わなければなりません。水辺の事故は、ただちに人命に結びつく危険性をもっています。そこで、水辺あそびの安全についていくつかの留意事項を紹介します。

○ 天候を調べよう

- ・川は上流で雨が降ると水かさが増し、水が濁ります。川へ行く場合は、前日までの雨の降り方に注意が必要です。また、ダムの下流では大雨の後などに急に大量の水を放流することがあります。ダムの下やダム近くの中洲で遊ぶ場合は特に注意が必要です。水の濁りが消え、澄んできれいになるまで2日～5日程かかります。

○ 川での一人あそびは危険です

- ・川など水辺での一人あそびは大変危険です。何人かのグループをつくり一緒にあそぶようにしたものです。大人と一緒にだと安心です。

○ 事前にあそび場所を調べておこう

- ・流れの速い場所、急に深くなっている場所、ゴミがたまっている場所など、危険箇所を事前に把握しておくことが大切です。
- ・急な雨、雷などに見舞われたときの避難場所となる場所を探しておきたいものです。

○ はだしは危険です

- ・川や海の磯などで遊ぶ場合、はだしは大変危険です。釣り針やガラスなど危険なものが落ちていることがあるので、古くなった靴など、水に濡れてもよい靴や長靴を準備しましょう。

○ 水の中に入る時には準備体操を忘れずに

- ・海や川で泳ぐ前には、十分な準備体操が大切です。準備体操が足りないと足の指がつったり、ふとももやふくらはぎの痙攣の原因にもなります。

○ ロープの活用を考えよう

- ・川は流れがあり大変危険も大きくなります。そこで、ロープの活用をすすめます。あそび場所より少し上流に一本、下流に一本ロープを張っておくことにより、あそび場所の範囲の確認ができるとともに、流された場合の命綱ともなります。
- ・ロープを伝って向こう岸へ安全に渡ることもできます。
- ・ロープの中央部くらいに浮き輪をつけておくとロープの場所を明確に示し、また、救命浮環（救命ブイ）の役割も果たします。

○ 満潮・干潮の時刻を調べよう

- ・潮だまりにあそびに行く場合は、満潮時に行ってもあそぶことができません。満潮と干潮の情報は新聞の暦コーナーに記載されています。また、電話では177番の天気予報でその地方の波の高さを教えてくれます。

○ 危険な生き物を知ろう

- ・川の近くの草むらにはマムシなど毒を持った生き物がいる場合があります。草むらの中に安易に入らないよう注意が必要です。
- ・海では、アンドンクラゲやウニ、ウツボなど危険な生き物が多く生息しています。このような危険な生き物を見つけた時にはその場からすみやかに離れるとともに、他の人たちにも知らせましょう。

○ 急な天候の変化に注意

- ・急に曇り、気温が下がったり、晴れていても風が強くなったりすると体感温度が下がり寒く感じる場合があります。その時は水から上がって身体を拭き、バスタオルや衣類を着用して保温するようにしましょう。
- ・雷鳴が近い時はあそびをすぐに中止し、岸に上がるようにしましょう。

水辺でのあそびは、命に関わる危険と隣り合わせであるということを常に自覚し、安全を第一に考えて活動しましょう。そのためにも入念な下見と計画が必要です。

○ 「自然学校で楽しむあそび 100 選」に関する参考文献

	著 者	発 行 所
自然ものしりランド 楽しいキャンピング 山	とよた 時	(株)誠文堂新光社
自然ものしりランド 楽しい山歩き	とよた 時	(株)誠文堂新光社
自然ものしりランド 楽しいキャンピング 海・川	とよた 時	(株)誠文堂新光社
シリーズ・自然にチャレンジ④ さあいこう 川はともだち	地学団体研究会『シリーズ・自然にチャレンジ』編集委員会	(株)大月書店
小学校1・2年生 生活科学習ずかん	増田 義和	実業之日本社
野外活動・遊び・ゲームアイデア集3 野外・探検遊びをしよう	監修 東山 明・岸本 肇	明治図書館出版(株)
自然・生活・科学体験アイデア集1 手づくりの自然遊びをしよう(植物編)	監修 東山 明・山田 卓三	明治図書館出版(株)
自然・生活・科学体験アイデア集5 自然観察で楽しく遊ぼう	監修 東山 明・山田 卓三	明治図書館出版(株)
フィールド遊びガイド	谷口 正彦	ベネッセ コーポレーション
自然 野 外 遊 び	池田 豊	(株)池田書店
伝 承 遊 び 事 典	芸術教育研究所	(株)黎明書房
ふるさと感じるあそび事典 -したい・させたい原体験 300 集-	山田 卓三	農山漁村文化協会
いのちを感じるあそび事典	山田 卓三	農山漁村文化協会
遊 び 図 鑑 -いつでも どこでも だれとでも-	奥成 達	福音館書店
自然と触れ合う野外遊び	日本ネイチャークラブ	日東書院
ネイチャーウォッチング 四季の草木あそび	菊田 穰	神戸新聞社
ふるさと兵庫のあそび	兵庫県小学校教育研究会体育部会	甲南出版社
すぐにできるやさしいあそびの本⑩ グループあそび	竹井 史郎	小峰書店
すぐにできるやさしいあそびの本⑥ 草花あそび	竹井 史郎	小峰書店
はてな なるほど サイエンス⑨ くさむらのたんけん	実野 垣久	(株)保育社
自然体験アクティビティ集	日本環境教育フォーラム	日本環境教育 フォーラム
I O R E シ ー ト	(財)日本教育科学研究所	(財)日本教育科学 研究所
アウトドアゲーム指導法マニュアル 自然体験活動の方法	野口 和行 他	(財)日本教育科学 研究所

参 考

- 自然学校の円滑な実施のために
- 自然学校実施要項
- 自然学校に活用されている主な宿泊施設
- 自然学校に活用されている主な県立施設

○ 自然学校の円滑な実施のために

自然学校は各学校が主体的に計画し実施するものであるが、県教育委員会では、自然学校をより充実したものとするため、下記のことからについて、施策を講じている。

(1) 自然学校専門指導員等の配置及びその活動

① 自然学校専門指導員の配置

- ア 教育事務所等配置 ⇨ 実施校の事前指導・現地指導・事後指導、プログラム指導、プログラム開発及び研究調査、指導員・救急員等の確保等
- イ 県立拠点施設等配置 ⇨ 実施校の現地指導、受入れ準備、プログラム相談・開発、下見相談、調査・統計等

嬉野台生涯教育センター、母と子の島、西はりま天文台公園、兎和野高原野外教育センター

② 自然学校救急員の配置 ⇨ 実施校の健康安全指導・事前指導

子どもの病気・けが等の応急処置及び医療機関利用の判断
子どもの健康状況調査、施設内の安全指導等

嬉野台生涯教育センター、母と子の島、西はりま天文台公園、兎和野高原野外教育センター
西播磨・但馬・丹波教育事務所、南但馬自然学校

③ 自然学校専門指導員等の派遣

自然学校の実施に際し、教育事務所等に配置している自然学校専門指導員等を実施校の要請に応じて派遣する。

- ア 指導内容 ⇨ 事前指導、現地指導、事後指導
- イ 派遣場所及び範囲 ⇨ 自然学校専門指導員等が所属する教育事務所管内の県立及び市町組合立等施設及び所属する教育事務所管内の実施校
- ウ 派遣申請 ⇨ 派遣を希望する自然学校実施校は、市郡町組合教育委員会を通じて教育事務所に「自然学校専門指導員等派遣申請書」を提出する。

④ 自然学校救急員の派遣

自然学校の実施に際し、教育事務所等に配置している自然学校救急員を実施校の要請に応じて派遣する。

ア 派遣施設

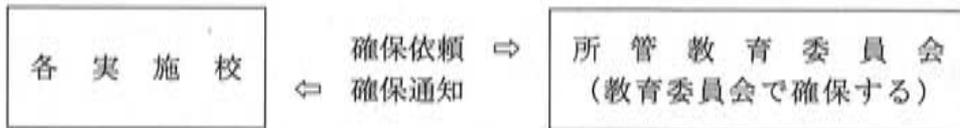
配 置	派 遣 先
西播磨教育事務所	管内の公立施設
但馬教育事務所	管内の公立施設（豊岡市、城崎郡、出石郡、浜坂町、温泉町）
丹波教育事務所	管内の公立施設
南但馬自然学校	但馬教育事務所管内の公立施設（朝来郡、養父郡、村岡町、美方町）

- イ 派遣申請 ⇨ 派遣を希望する自然学校実施校は、市郡町教育委員会を通じて、教育事務所に「自然学校救急員（非常勤）派遣申請書」を提出する。

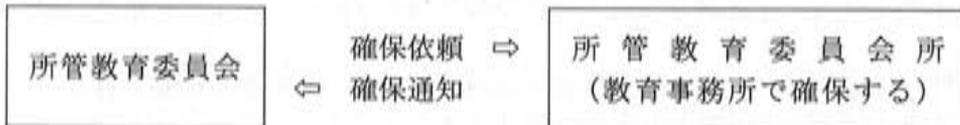
(2) 指導員等の確保方法

実施校が、実施計画に基づき、必要な人材の確保を所管の教育委員会に依頼すれば、教育委員会は責任を持って教育事務所、野外活動施設と連携し、当該自然学校の円滑な実施が図られるようにする。

- ① 実施校が、所管の教育委員会に確保を依頼する。



- ② 所管の教育委員会で確保が困難な場合は、管内の教育事務所に確保を依頼する。



- ③ 野外活動施設等は、当該活動施設で確保できる人材（技術指導員、指導補助員、救急員）を学校、教育委員会、管内教育事務所に明示し、十分連携できるようにする。

自然学校実施要項

1 趣 旨

学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、児童が人や自然、地域社会とふれ合い、理解を深めるなど、さまざまな体験活動を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、「生きる力」を育成することを目的とする。

2 実施対象

小学校5年児童とする。

3 期 間

5泊6日とする。

4 実施内容

- (1) 日常生活では味わえない感動体験など、自然学校で指導することにより効果が上がる活動を行う。
- (2) 施設に宿泊し、周辺の自然についての学習や地域とのかかわりのある活動を行う。
—活動例— (児童や学校の実態に応じて創意工夫すること)
○自然観察 ○登山・ハイキング ○オリエンテーリング ○ナイトハイク ○星空観察
○自然の素材を使ったクラフト ○基地づくり ○川遊び ○野外炊事 ○テント泊
○キャンプファイヤー ○魚釣り ○カヌー・カッター体験 ○課題研究(環境・気候・生物・産業・歴史・文化財・民話等) ○地域との交流(地域の暮らし・伝承遊び等) ○伝統工芸・芸能学習 ○勤労体験(農林業等) ○福祉施設との交流 ○国際交流体験 ○奉仕活動など

5 利用施設

実施校の活動計画に基づき、それに適した県内の施設を選定するものとする。

6 指導員等

自然学校の効果的な実施を図るため、教員の外に体験活動の指導に当たる指導員、その補助に当たる指導補助員及び救急員を置くものとする。

7 計画・立案

「生きる力をはぐくむ体験活動」等、県教育委員会の作成した資料等を参考に、自然学校を年間指導計画に位置づけ、以下の視点に留意しながら、子どもの側に立った活動とする。

- ア 計画にあたっては、児童の参画のもと、興味・関心を重視した選択型プログラムを設定するなど、子どもたちの主体的な活動が展開されるようにすること。
- イ 一つの活動にじっくりと取り組むなどゆとりあるプログラムとするため、深まりや発展性のある活動、試行錯誤を大切に活動などを重視し、実施期間中に活動場所を大きく移動するなどの過密なプログラムを組まないこと。
- ウ 友だちとの共同生活や地域とのふれあいを通して子どもたちの人間関係を豊かにするとともに、自己を見つめ生き方を考えるきっかけとなるよう配慮すること。
- エ 豊かな自然とふれあう活動を中心に据え、自然に対する認識を広げ、深めさせるとともに、命あるものを身近に感じ、生命を尊重する心を醸成するプログラムとすること。
- オ 自然学校で身につけた力が学校や家庭、地域社会での生活でも生かされるよう配慮すること。

8 教員の勤務について

教員が引率指導業務に従事する期間は、原則として2泊3日とする。

特に、女性教員は2泊3日以内とするとともに、特別な家庭事情のある教員については、日帰りも含めて弾力的に対処する。

9 補助金

市町(市町の組合を含む)が県の補助を受けて実施する自然学校に要する経費に対し、自然学校推進事業補助金交付要綱の規定により補助金を交付する。

○ 自然学校に活用されている主な宿泊施設

区分	施設名	所在地	宿泊定員	連絡
国立	淡路青年の家	〒656-0543 三原郡南淡町阿万塩屋757-39	400	0799-55-0460
県立	南但馬自然学校	〒669-5134 朝来郡山東町迫間字原189	270	0796-76-4730
	総合体育館	〒663-8142 西宮市鳴尾浜1丁目16-8	約400	0798-43-1143
	奥猪名健康の郷	〒666-0201 川辺郡猪名川町杉生字奥山1-22	180	0727-69-0485
	丹波林間学校	〒669-2145 篠山市木津字前山191-2	100	0795-97-3088 篠山市教育委員会 0795-94-1131
	嬉野台生涯教育センター	〒673-1415 加東郡社町下久米1227-18	480	0795-44-0711
	母と子の島	〒672-0100 飾磨郡家島町西島	217	07932-7-1508
	西はりま天文台公園	〒679-5313 佐用郡佐用町西河内407-2	128	0790-82-0598
	三室高原青少年 野外活動センター	〒671-3232 宍粟郡千種町河内字真所	120	0790-76-2249 千種町教育委員会 0790-76-2210
	西播磨文化会館	〒679-4311 揖保郡新宮町宮内458-7	80	0791-75-3663
	但馬文教府	〒668-0056 豊岡市妙楽寺41-1	78	0796-22-4541
	兎和野高原野外教育センター	〒667-1336 美方郡村岡町宿字兎和野791-1	184	0796-94-0211
	但馬牧場公園	〒669-6813 美方郡温泉町丹土	69	0796-92-2641
	但馬長寿の郷	〒667-0021 養父郡八鹿町八鹿1675	100	0796-62-8456
	淡路文化会館	〒656-1521 津名郡一宮町多賀600	60	0799-85-1391
市町組合立等	神戸市立自然の家	〒657-0101 神戸市灘区六甲山町中一里山1-1	208	078-891-0001
	宝塚市立少年自然の家	〒669-1211 宝塚市大原野字松尾1	192	0797-91-0314
	伊丹市立野外活動センター	〒669-1412 三田市木器字南下山1266-10	280	0795-69-1165
	三田市立野外活動センター	〒669-1401 三田市小柿949	160	0795-69-0388
	事務組合立丹波少年自然の家	〒669-3803 氷上郡青垣町西芦田イグ32-2	444	0795-87-1633
	明石市立少年自然の家	〒674-0064 明石市大久保町江井島567	230	078-947-6181
	加古川市立少年自然の家・野外活動センター	〒675-0435 加古川市東神吉町天下原715-5	220	0794-32-5177
	財団法人三木山人と馬とのふれあいの森協会 三木ホースランドパーク エオの森研修センター	〒673-0435 三木市別所町高木	160	0796-83-8110
	西脇市立青年の家	〒677-0039 西脇市上比延町字伊勢山1434-8	200	0795-22-0703
	加美町立青年の家	〒679-1201 多可郡加美町豊部1840-53	100	0795-35-1572
	高砂市立青年の家	〒676-0031 高砂市高砂町向島町1710	106	0794-43-2155
	姫路市立藤ノ木山野外活動センター	〒679-2113 姫路市山田町南山田1354-4	320	0792-63-2997
	姫路市立引原野外活動センター	〒671-4204 宍粟郡波賀町引原307-3	326	0790-73-0453
	姫路市立星の子館	〒671-2222 姫路市青山1470-24	100	0792-67-3050
	神崎町立グリーンエコー笠形	〒671-2411 神崎郡神崎町根字野1019-13	300	0790-32-1307
	神崎町立新田ふるさと村	〒679-2401 神崎郡神崎町新田340-1	150	0790-33-0870
	姫路市立梯野外活動センター	〒679-2513 宍粟郡山崎町梯313-13	420	0790-62-3121
	波賀町サイクリングターミナル (波賀高砂の家)	〒671-4213 宍粟郡波賀町原625	270	0790-75-2355
	尼崎市立美方高原自然の家	〒667-1532 美方郡美方町新屋(中サバ)	260	0796-97-3601
	あけのべ自然学校	〒667-0435 養父郡大屋町和田1184(明延)	225	0796-68-0258
	西宮市立山東少年自然の家	〒669-5125 朝来郡山東町粟鹿字細田2179	260	0796-76-4100
	休暇村竹野海岸	〒669-6201 城崎郡竹野町竹野1047	157	0796-47-1511
	但馬海岸豊岡簡易保険保養センター	〒669-6123 豊岡市小島字荷柄1188-8	90	0796-28-3375

○ 自然学校で活用されている主な県立施設

施設名	所在地	主な活動	連絡
防災科学館	〒651-1102 神戸市北区山田町下谷上字中一里山15-13	・防災学習（地震体験）	078-741-6533
海洋体育館	〒659-0032 芦屋市浜風町30-2	・カヌー、ヨット、 ボート体験	0797-32-2255
人と自然の博物館	〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目	・屋内展示の自然めぐり ・環境学習等	0795-59-2001
丹波年輪の里	〒669-3312 氷上郡柏原町田路102-3	・クラフト創作を主とした木 の文化にふれる活動	0795-73-0725
フラワーセンター	〒679-0187 加西市豊倉町飯森1282-1	・四季の草花を楽しむ活動 ・野外広場での活動	0790-47-1182
播磨中央公園	〒679-0212 加東郡滝野町下滝野1275-8	・バラ園フラワーガーデン ・マウンティンバイク等	0795-48-5289
三木山森林公園	〒673-0433 三木市福井字三木山2465-1	・森林浴	0794-83-6100
東はりま日時計の丘公園	〒679-0312 多可郡黒田庄町門柳871-14	・焼製体験 ・木工クラフト ・ホタルの観察	0795-28-4851
歴史博物館	〒670-0012 姫路市本町68	・兵庫県の歴史学習 ・姫路城に関する学習	0792-88-9011
昆虫館	〒678-5227 佐用郡南光町船越617	・生きた昆虫の生態観察 ・昆虫の標本見本	0790-77-0103
赤穂海浜公園	〒678-0215 赤穂市御崎1857-5	・塩づくり体験 ・アスレチック	07914-5-0800
播磨科学公園都市オプトピア （PR館）	〒678-1201 赤穂市上郡町金出土1499-3	・播磨科学公園都市の見学	07915-8-1155
水産試験場内水面漁業センター	〒679-3442 朝来郡朝来町田路1164	・淡水魚の生態観察 ・魚釣り体験	0796-78-1701
北部農業技術センター	〒669-5254 朝来郡和田山町安井123	・農産物の加工体験 ・牛の見学	0796-74-1230
森林・林業技術センター 緑化センター	〒669-5114 朝来郡山東町野間903-1	・樹木を中心とした体験学習	0796-76-2257
但馬長寿の郷	〒667-0021 養父郡八鹿町八鹿1675	・福祉体験・木工クラフト ・陶芸 ・里山散策	0796-62-8456
円山川公園	〒669-6123 豊岡市小島荷柄1163	・カヌー、カヤック、カッター ・スケート体験 ・プール	0796-28-3085
但馬ドーム	〒669-5379 城崎郡日高町名色88-50	・ニュースポーツ等	0796-45-1900
但馬牧場公園	〒669-6813 美方郡温泉町丹土1033	・但馬牛の博物館見学 ・牛の世話 ・ソリ遊び	0796-92-2641
淡路島公園	〒656-2401 津名郡淡路町岩屋大林2674-3	・園内散策 ・アスレチック	0799-72-5366
淡路ファームパーク	〒656-0402 三原郡三原町八木養宜上1396	・動植物とのふれあい体験	0799-42-2440
淡路ふれあい公園	〒656-0122 三原郡緑町広田広田1473-12	・野外での遊び	0799-45-1735
但州丸（香住高等学校）	〒669-6563 城崎郡香住町矢田40-1	・実習船但州丸の見学及び 乗船	0796-36-1181
県立佐用高等学校	〒679-5381 佐用郡佐用町佐用260	・農業、畜産体験	0790-82-2434

平成13年度兵庫県立南但馬自然学校プログラム研究委員会委員名簿

(順不同)

分野	氏名	所属・職名
学識経験者	山田 誠	神戸市外国語大学教授
	新穂 千賀子	姫路工業大学助教授
	水岡 俊一	兵庫教育文化研究所事務局長
野外活動施設関係者	山根 伸治	県立兔和野高原野外教育センター 自然学校専門指導員(駐在指導担当)
	植野 豊	県立嬉野台生涯教育センター 自然学校専門指導員(駐在指導担当)
自然学校専門指導員	加藤 義弘	但馬教育事務所 自然学校専門指導員
	三原 智雄	丹波教育事務所 自然学校専門指導員
	谷 宜憲	淡路教育事務所 自然学校専門指導員
関係行政機関関係者	中田 直人	県教育委員会義務教育課指導主事
自然学校実施校教員	米澤 公子	伊丹市立神津小学校教諭
	西田 千枝子	滝野町立滝野南小学校教諭
	入江 秀史	赤穂市立塩屋小学校教諭
県立南但馬自然学校	足立 純	県立南但馬自然学校指導主事
	垣尾 幸博	県立南但馬自然学校指導主事
	西村 一範	県立南但馬自然学校指導主事
	芦田 哲	県立南但馬自然学校指導主事

平成 13 年度
自然・人・地域に学ぶ
平成 14 年 3 月発行

発 行 兵庫県立南但馬自然学校
〒669-5134
兵庫県朝来郡山東町迫間字原189
☎0796-76-4730
印 刷 福富印刷株式会社

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~shizen-bo>
Eメール shizen-bo@hyogo-c.ed.jp

